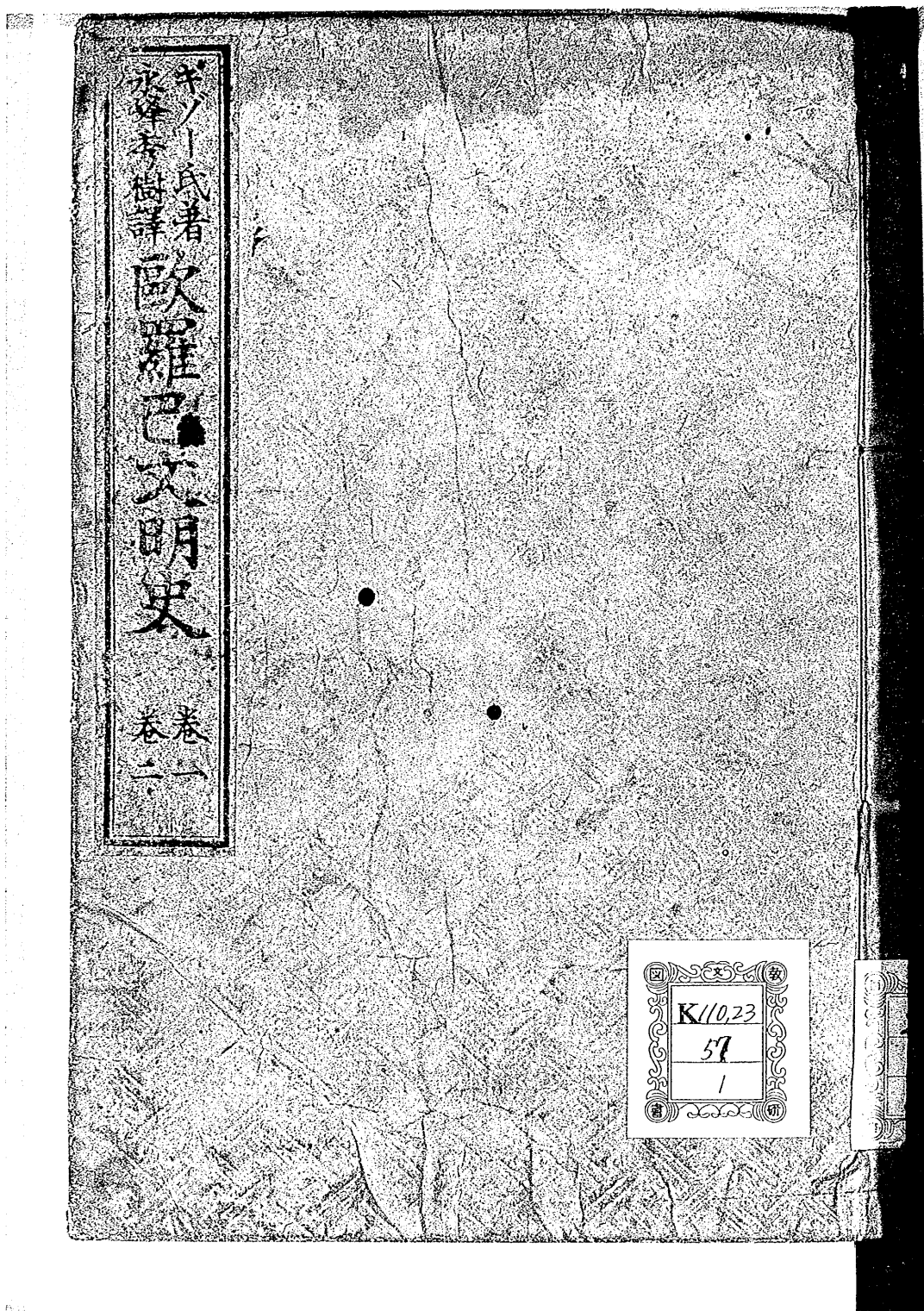




B 4

651



版 權 免 許

佛國ギゾー氏著
日本永峰秀樹譯

歐羅巴文明史

東京 斯文館藏板

解事



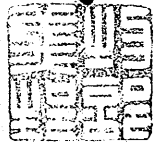
金溪

中

古
名

歐羅巴文明史

永年入心



歐羅巴文明史

凡例

一原書ハ千八百七十三年新約克刊行ニ関リヒ
ストリラーヴ、シヅ井リゼーシヨン、イン、ユーロ
ープト題シ即チ歐羅巴文明史ノ義ニシテ佛
國文部卿兼巴理府「アキュルチ」オウ、リテラチ
ール校史學博士タル「ギゾー」氏ニ出テ、新約
克府大學校理學兼史學博士タル「ヘンリー」氏
ノ譯スル所ノ者ナリ
一文章ノ訓讀ハ煩ハシキヲ以テ大畧音讀ヲ用

ヒ兎輩ノ為ノニ儘其義ヲ左傍ニ記スモノアリ是レ讀下ニ妨ケナカラニヲ欲シテナリ一人名地名官名ノ解シ難キ者ハ分註ヲ加フ



歐羅巴文明史卷之一

佛國　ギゾー氏　原著
米國　ヘンリー氏　譯述
日本　永峰秀樹　再譯

総論

今マ歳既ニ闌ニシテ時光モ多カラサルノ際ニ於テ最モ短簡ニシテ又最モ耳ニ新シク且ツ最モ心ヲ悦ハシムヘキ者ヲ撰ンテ之ヲ教授セント思考セシニ歐羅巴近古史ニ若クモノアラヌ就中歐羅巴洲目今ノ文明ニ進歩セシ所以ンノ

精神脈理ノ本末ヲ論スルモノ恰カモ我カ願ヒ
ニ合リ卿等心ヲ潜メテ之ヲ講習セハ當ニ大利
ヲ収ムヘキノ學タリ尋常一様ノ學ト做シテ忽
カセニ聞クヘカラス
余カ特ニ歐洲ノ文明ト云フモノハ佞令時ニ先
後アリ形勢ニ異同アリト雖凡歐洲各國其文化
ノ度大同小異甚タ逕庭ナク其因テ起ル所モ亦
大畧同一ナリ之レ余カ概稱シテ歐洲ノ文明ト
云フ所以ニナリ
歐洲各國其外貌大畧相近似スト雖凡其間相類

セサルモノ亦少ナカラス且ツ歐洲中一個ノ國
モ未タ文化ノ美ヲ盡スモノアラサルヲ以テ或
國ノ歴史ヲ拔擢シテ文明史ヲ編ム能ハス且ツ
各國各自事物ノ他國ニ秀ツルモノアルヲ以テ
文明ノ資本タル事物ノ起原ヲ論スルニ當ツテ
之ヲ英佛日西等ノ諸史中ニ探ラサルヲ得ス
吾人佛國ノ人民タル者最モ歐洲文明史ヲ學ハ
サル可ラス其之ヲ學フノ利言フ可ラサルナリ
吾レ我國ヲ誇大スルニ意ナシト雖凡佛國ヲ目
シテ歐洲開化ノ樞要ト稱スヘシ然レ凡佛國万

事他國ニ抽^{ヒキ}シツルト云フニハアラス時アツテ
 技藝ハ伊太利ニ譲リ國憲ハ遠ク英國ニ劣ル等
 ノ如キ精細ニ探討セハ其他諸國モ必ラス佛國
 ニ超越スルモノアラシ然リト雖^レ凡佛國^ニ轡^ヲ按
 ヘテ一度開化ノ競場ニ開馬シ^ハ挑聲一響把馬一
 拍スルニ當ツテハ精神勇銳共ニ馳騁スヘキノ
 對敵少ナリ若シ全勝ヲ得サルモ遂ニ之ニ趕到
 セサルナキニ於テハ世人ノ洽^ニ許可スル所
 ナランカ

加之人人ノ議論邦國ノ律令ト雖^レ凡苟モ能ク文

化ノ進步ヲ助クヘキ者ハ其種子ヲ世ニ生スル
 ハ常ニ之ヲ他國ニ歸スト雖^レ凡之ヲシテ兼實ヲ
 結ハシノ若クハ之ヲ全洲ニ傳播シ若クハ之ヲ
 以テ歐洲開化ノ根株ヲ強固スルニ至ツテハ常
 ニ佛國ノ手ヲ經テ之ヲ培養矯正スル者ニアラ
 サレハ歐洲一般ニ運輸スヘキ者トナル能ハサ
 ルナリ

人ヲ待スル懇切ニシテ又慈愛ノ念深ク事ヲ處
 スルニ頑^{ガシ}ナラスシテ尚ホ熱力アルカ若キニ至
 ツテハ佛人天資ノ獨リ秀ツル所ニシテ他邦ノ

人ノ企及^{クダラス}フ所ニアラス蓋シ其因テ起ル所左ノ
 二者ニアランカ其一ハ佛人ノ言語ノ甘美ト心
 志ノ圓滑トニアリ其二ハ容儀意趣愛スヘク衆
 ノ親愛^{コダハラス}ヲ得易キニアリ然リト雖^{ヒトキハ}凡尚ホ一層深
 ク其本ヲ探レハ真率懇切慈愛ノ三者ハ佛人獨
 リ專ラニスル所ノ形狀ニシテ又々其文化ノ獨
 リ世ニ秀ツル形狀タリ佛人ノ能ク歐洲文化ノ
 魁首タル所以^{カシラ}ニノモノハ善ク此諸性質ヲ有ッ
 ヲ以テナリ
 カク重大ナル事蹟ヲ記載スル歴史ヲ學フニ佛

國ヲ牙^{ハシ}營トナスモノハ敢テ恣^{ホシ}マ、ニ私論ヲ主
 張スルニアラス只學習シテ其行路ヲ推究スレ
 ハ自カラ事物ノ最モ重要ナル處ニ於テ佛國常
 ニ其位置ヲ占ルヲ見ルヲ以テ佛國ヲ文化ノ牙
 營トシテ論スルハ自然已ヲ得サルノ事ナリ
 文化ノ事タルヤ無形ニ似タリ爰^コヲ以テ其皮^{カハ}膚
 ヲ見テ其要ヲ探ル能ハサルモノハ之ヲ實事ニ
 アラスト謂フト雖^{ヒトキハ}凡文化ノ實事タル恰カモ他
 ノ實事ノ如ク之ヲ學習スヘク之ヲ解明スヘク
 又之ヲ歴史トシテ記載スヘキヲ知ラサルモノ

ナリ
往^{ミコト}日マテ歴史ノ名ハ手ニ觸レ目ニ覽ラルヘキ
事ヲ記シタル者ノミニ限レリ之レ實ニ歴史ノ
正意ナリ然レ氏此間又タ仁ト云ヒ義ト云フカ
如キ手目ニ觸覽スヘカラサル實事アリテ其重
大ナル一之ヲ戰鬪政法ニ比スルニ尚ホ餘リア
ルモノアリ此外ニナホ手目ノ及ハサル所ニ於
テ一人ノ上ニ起リ^{ミコト}闔洲ノ中ニ行ハレ或ハ名ア
リテ何年何月幾日ニ何處ニ顯ハレタルト之ヲ
詳ニスヘキアリ或ハ無名ニシテ^{ミコト}幽冥ノ中ニ運

行スルヲ以テ何年何月幾日ニ何處ニ起リタル
ト之ヲ審ニスル能ハスト雖^{ミコト}氏尚ホ戰鬪政法ニ
於ケルカ如ク均シク是レ實事ノルモノアリ
廢興存亡ノ^{ミコト}脉理ヲ條達シテ明カニ之ヲ説クモ
ノ是ヲ世ニ史理ト稱ス史理ヲ記スル之ヲ戰鬪
政法ヲ記スルモノニ比スレハ甚難ク史家其真
ヲ得ルモノ蓋シ鮮シ史理ヲ記スルモノハ之ヲ
尋常歴史ヲ記スルモノニ比スレハ其文理更ニ
條暢ニシテ解シ易カラシムヘキヲ要ス然リ而
メ史理ノ事タル其難キカ為メニ其重要ヲ失ハ

歴史ノ最モ大切ナル者トシテ世人ノ心ヲ潛
メテ學問スル所ナリ

文明ナルモノモ亦實ニ實事ノ一タリ其事タル
ヤ洽周二過キテ却ツテ之ヲ捕捉スルニ難ク纏
繞ニ過キテ之ヲ條達スルニ難ク暗深ニ過キテ
之ヲ發覺スルニ難シ其之ヲ辨別明解スルノ
易カラサルハ世人ノ徧ク知ル所ナリ然リ而シ
其難キカ爲メニ文明ノ事ヲ辨別明解スルノ重
事タルヲ減セス又々文明ノ重事タルニ些害ナ
キトリ然ラハ則チ文明ナル者ハ善ナランカ惡

トランカ果メ何者ナルヘキヤ一人ハ文明ヲ以
テ禍害ヲ孕ム者ト賤シ又一人ハ文明ヲ以テ
名譽休祥ヲ得ヘキ者ト認メタリ

前者ハ文明ヲ以テ只人欲ヲ增長スヘキ者ト
ナシ後者ハ之ヲ以テ身ノ安舒心ノ良善ヲ得
ヘキ者ト做スヨリニ説カク相反ス然ルニ文
明ナル語ハ元來蕃風ニ反對シタル語ナリ夫
レ人ハ交際ニヨリテ其幸福ヲ得ヘキナリ交
際ナキ者ハ死ニ至ルマテ其天賦ノ徳ヲ纖若
モ顯ハス能ハス然ルニ上帝之カ父子夫婦ナ

ルモノヲ製シテ之ニ賦與スルヲ以テ金ク交際ヲ失フモノアラス然リト雖凡其交際タルヤ父子夫婦ノ間ニ止マリ他ニ及サ、レハ永ク野蕃ノ風ヲ脱スルノ期ナカラシ交際ノ廣狹、整不整、完不完ノ度ニ随ツテ人ノ仁暴、正不正、學不學ノ上ニ感シ交際上ノ事物ノ善惡都テ是等數事ノ善惡ニ関スト雖凡就中交際ノ政法即チ國法ナル者ハ他ノ諸事ノ安危長短ニ關スルノ具タルヲ以テ最も重ンスヘキモノタリ故ニ文明トハ交際ノ政法、邦國ノ安固

ヲ謂フノ語ナリ

故ニ文明ハ個々獨立シテ法制ナキ野蕃ノ次第ニ開化シテ交際ノ政法ヲ得タル者ナリ故ニ文明中ニモ亦自カラ階級アリ又タ文明ハ日月ニ進歩シテ止マサル者タリ故ニ文明史ナル者ハ政法ノ善惡ニ随ツテ文明ノ度、先進後退スル所以シノ本原ヲ記シ人類ノ趨向日月ニ人欲ノ私ヲ去リ仁慈ノ道ニ進歩スル形狀ヲ載スルノ書タリ

然ラハ則チ文明ナルモノハ天下億兆ノ共ニス

ヘキモノニシテ仁徳ニモ亦道アリ之ニ従ヘバ
 歩々前進スヘク且ツ上帝之ヲ導ヒテ正路ニ從
 カハシメ^{ミチ}歧路ニ迷フノ患ナク又既ニ之ヲ得ル
 ノ後ハ再ヒ之ヲ失フノ恐レナク之ヲ子孫ニ遺
 シテ子孫又相共ニ之ヲ改良盛大ニシテ終ニ事
 物ノ善義ヲ盡スヘキヤト深思スルニ人ノ天性實
 ニ能ク是等ノ希望ヲ満スヘキノ徳ヲ備ヘ且ツ
 文明ハ數^{スベシ}テ天地ノ覆載^{フクサイ}スル所口ニ偏^{ヘド}カルヘク
 又常ニ之ヲ改正增加スヘクシテ終ニハ萬國ノ
 一大文明史ヲ編ムヘキノ樂時アツテ來ル^ル疑

ヒナキナリ此史タルヤ史中ノ最モ善且ツ善ナ
 ルモノニシテ衆義ヲ包ヌヘキ者ナリ
 文明ハ諸事蹟ヲ包藏シ又タ諸事蹟ノ可否ヲ決
 スヘキ重大ノ實事ナリ或國ノ事蹟及ヒ事蹟元
 質タル法律、通商、職業、戰鬪等ヲ集ノテ之ヲ一塊
 トナシ其可否得失ヲ論スルニ當ツテ果ノ何物
 ヲ以テ模範トナスヘキヤ其之ヲ決スルノ法其
 事ノ文化ノ消長ニ於テ如何ナル功害アルヤヲ
 推^ス覈シテ之ヲ裁決セサルヘカラサルナリ大洋
 ニ致送スルノ量ニ依ツテ河川ヲ論シ文化ヲ進

歩セシムルノ功ニ因ツテ事物ヲ論ス大洋ハ諸
 川ノ流注スル所ニシテ又タ其永久涸レサルノ
 源ナリ文化ハ兆民ノ市場ニシテ又其壽福安全
 ノ本タリ故ニ事ノ可否ヲ論スルハ其功害ヲ稱
 量比較スヘキナリ茲ヲ以テ專横反乱等ノ如キ
 ハ國家ノ治安ヲ害シ甚タ嫌惡スヘキ者タリト
 雖凡能ク文化ノ進歩ヲ助ケタル凡ハ之ヲ嫌惡
 スルノ念ヲ大ニ減却ス故其本性文化ニ補ヒア
 リ又タ其事蹟文化ヲ進歩セシモノ能ク世人ノ
 耳目ニ觸ル、凡ハ都テ其之ヲ買フノ價ヲ論セ

ス高價之ヲ買フテ敢テ悔ルナク却ツテ之ヲ悦
 ヘリ

又其本義ハ獨リ一人ノ上ニ限り傍人ニ関セサ
 ル重^{モチカ}大實事アリ是ヲ教法、理學、詩文、學問、藝術ト
 云フ此等數事ハ重ニ一人一個ノ上ニ於テ其心
 ヲ正フシ其智ヲ磨キ其情ヲ悦ハシムルニ歸シ
 テ交際上ニ大關係ナキカ如シト雖凡文化ノ本
 源ヲ學習スルニ於テ是等數事常ニ其進歩ヲ促
 スニカアリ各國常ニ文化ヲ以テ專ハラ教法ニ
 歸ン文學藝術モ亦之レト争フテ其稱譽ヲ今チ

取ラント常ニ其文化ニ大功アルヲ自カラ唱ヘ
其他諸事其本性高上ニシテ一身ニ止マルモノ
モ亦文化ニ補アルヲ唱ヘテ其名ヲ求ノントス
故ニ此等數事ニ因テ觀レハ諸事物ノ尊卑ヲ頒
チ功罪ヲ定ムヘキ者ハ文明ヲ裨補スルノ度ニ
隨ツテ之ヲ決スルニ在リ只諸事物ノ尊卑ヲ頒
チ功罪ヲ定ムヘキノミナラス又以テ學問藝術
ノ功罪ヲ決シテ之ヲ黜陟スヘキモノ亦唯獨リ
文明ニアランノミ
斯ク貴重廣大ナル歴史ノ國家ノ精神ヲ記載ス

ルモノヲ推考スルニ先タツテ先ツ其本質ヲ求
ノシヲ要ス

文明ノ本質ヲ論スルニ於テ單ニ之ヲ道理上ニ
歸シ又專ハラ窮理上ニ求ノ各無形ノ理ヲ推シ
テ文明ノ事物ヲ以テ已カ定ノタル理ノ效驗ナ
ルヲ證スルモノアリ何レモ其正ヲ得シモノナ
ラス真ニ文明ノ本質ヲ論スル者ハ之ヲ實事ニ
求メテ事々着實ナランヲ要ス
往古ヨリ諸國ニ於テ文明ノ語ヲ用ヒ來リテ其
語意ニ暗明ノ差アリ廣狹ノ別アリト雖氏尚ホ

普通ノ語トナリ各人ノ理會スル語タリ吾カ今
推考スル所ノ者ハ世人普通ノ意義ヲ求ムルニ
アリ都テ字義ヲ求ムルニハ之ヲ學問上ニ求メ
ンヨリハ之ヲ世人ノ偏子ク理會スルモノニ求
ムルノ其真意ヲ得ルニ如カス事ニ名ヲ命スル
ハ世人一般ノ意ニ出テタリ世人ノ意ハ即ハチ
天賦ノ徳性ノ集マリタル意ナリ世人ノ普子ク
理會スル意義ハ年月ヲ經テ成ルモノニシテ凡
案ノ上ニ之ヲ決スルカ如キニアラサルナリ今
一事アリテ新タニ世ニ顯ハルレハ字義ノ之ニ

應スル語ヲ以テ之ニ命シ再ヒ之ニ類似スルモ
ノ顯ハルレハ又之ヲ其字義ノ中ニ加入スルヲ
以テ漸次其意義廣クナリ若干ノ義ヲ包ルニ至
ル然ルニ學問上ニ定メタル字義ハ限リアリテ
之ヲ普通ノ用ト為ス能ハス故ニ字義ヲ學問上
ニ定メタル者ハ狹クシテ稍不正ニ洩ルアリ世
間普通ノ字義ハ廣クシテ精細ナリ今文明ノ字
義ヲ求ムル之ヲ普通ノ字義ニ求メハ其始メニ
於テハ稍不明ノ嫌ヒアリト雖凡其真意ヲ理會
スルニ至ツテ尤精覈ナラン

吾レ今試ミニ國民ノ形狀若干ヲ卿等ニ示シテ
其文化ニ進歩スルモノナランカ又文明ノ字義
ニ適當ナルヘキヤヲ問ハン
一部ノ人民其外貌從容トシテ愉樂ノ態アリ其
稅歛ハ薄ク其力役ハ稀ニ政治ハ正シクシテ邪
ナラス之ヲ概言スレハ身軀ヲ保護スルノ事ニ
於テ一モ不平ノ訟フヘキナシ然リト雖仁義
ノ道聰明ノ用ニ於テハ毫モ活動ノ氣ナク痿痺
シテ死スルカ如シ其形狀之ヲ殘虐ト云フヘカ
ラス尺之ヲ卑屈ト云フヘシ昔時諸侯合從ノ時

イノチノミヤハナク

ニ於テ其人民ヲ養ナフ恰カモ羊豚ヲ畜フカ如
ク之カ疾病患苦ヲ懸レミ之カ口腹ノ欲ヲ得セ
シムト雖凡毫末モ仁義聰明ノ為メニ心ヲ用ヒ
サリシハ正ニ此形狀ニ應セリ之ヲ以テ文化ト
稱スヘキヤ其人民ノ仁義聰明ノ進歩ヲ期スヘ
キヤ否ヤ

又一部ノ人民ハ其外貌ノ幸福前者ヨリモ劣レ
リト雖凡尚ホ其形狀之ヲ幸福ト稱スヘク其聰
明仁慈ノ勢力全ク欠乏スルニモアラス僅カニ
一二ノ高上ナル意思ヲ其中ニ存シ教法脩身ノ

氣稍良善ノ方向ヲ得タリト雖^{ホチヲハル}氏苦慮シテ自主
ノ諸理ヲ抑壓シ他國ノ人民ノ身軀ヲ抑制サル
、カ如ク此國ノ人民ハ心思ヲ抑制サレ一二ノ
真理僅カニ取用スルヲ許サル、ト雖^{ホチヲハル}氏自カラ其
理ヲ研究スルヲ容サレス其心思意向ハ万古ニ
亘ツテ變スルヲナシ此ノ如キ者ハ亞細亞洲中
神道ヲ主トスル政法ヲ取用シテ人智ノ進歩解
明ヲ抑制スル國々ノ^{アリサレ}形狀ニシテ印度ノ如キ其
一二居レリ此ノ如キ人民ノ中ニ文化ノ進歩ヲ
期スヘキヤ否ヤ

又一部ノ人民ハ前二者ト全ク異ナリ此部ノ人
民ハ身軀ノ自由ヲ得ルヲ大ニシテ其民憤々ト
シテ秩序ナク貴賤尊卑ニ甚々逕庭アリ強ハ弱
ヲ吞ミ大ハ小ヲ并セ強暴殘虐專ハラ行ハレタ
ル者ハ往時歐羅巴ノ形狀ナリキ此ノ如キ者ヲ
文明開化ト云フヘキヤ此中自カラ文化ノ落蕾
ヲ包メリト雖^{ホチヲハル}氏此ノ如キ形狀之ヲ世人普通ノ
文化ノ義ニ用ヒ難シ
最後一部ノ人民ハ其自主自由最モ廣大ニシテ
尊卑ノ別少ナク各人皆ナ肩ヲ比スヘク人々皆

ナ其嗜好ニ随フテ行ナフモ之ヲ制スルモノナク
權威ニ至ツテモ甚シキ大小アルナシ此ノ如
キ者ハ國家ノ幸福トスヘカラス此ノ如キ人民
ノ中ニハ愛國ノ念モナク交際ノ意モ薄ク又交
際ノ利益ヲ知ラス各人其生涯ヲ單獨隔離ノ中
ニ送り其才智ヲ磨クノ地ナク吾カ生計ハ他人
ニ關係ナク他人ノ生計亦吾レニ關係ナクシテ
先祖ノ何所ニ生レ何地ニ死セシヤヲモ尋ヌル
能ハス子々孫々相繼ヒテ數十代ヲ経ルノ後ニ
至ツテモ猶ホ太古ノ形状ヲ變スルナキ者ハ諸

夷諸蠻ノ形状ナリ自主自由ヲ得又權利ノ均同
ヲ保テリト雖モ未タ一步モ文化ノ道ニ進ミシ
モノニアラサルナリ

以上掲ケシ諸形状一モ世人ノ文化ト稱スル意
義ニ適當ナラス夫レ文化ナル語ノ元_{モチ}ハ世事
ノ改良人智ノ解發ニアリ

何ヲカ世事ノ改良人智ノ解發ト云フヘキヤ之
ヲ明解スル最難シ但シ之ヲ字面上ニ尋ヌレハ
其交際上ノ改良ニアルヲ見ルヘシ之ヲ區別ス
レハ交際ノ改良ト云ヒ世風ノ改良ト云フ此ニ

國語彙編
卷之五
論語

者何レモ人間ノ交誼ノ次第ニ良善ニ遷ルヲ云
ヒ推テ之ヲ考フレハ國家ノ繁榮交際ノ律令モ
從ツテ次第ニ良善トナリ之ヲ大ニシテハ富國
強兵之ヲ小ニシテハ人民ノ權利ニ甚逕庭ナキ
ヲ致スルノ形状ナルヲ會得スヘシ
唯之ヲ字面上ニ尋ヌルハ文化ナル語意上ノ如
シト雖凡其真意ハ獨リ交際上ノ事物ノ法制等
ノ良善ナルニ止マラサルナリ若シ文明ヲシテ
上ニ説キシ如ク只其希望衣服ノ溫飽ト生計ノ
區分トノミニアラシメハ畢竟人世ハ蟻蛭蜂房

ニ過キサルノミ

上ノ如キ狹隘ノ義ヲ以テ文化ヲ説カハ一個ノ
人モ之ヲ可トスルモノアラジ人ハ万物ノ最モ
靈妙ナルモノナリ故ニ此ノ如キ狹隘ナル者ハ
希望ノ遂ケタル者ニアラサルナリ
是ヲ以テ世事ノ改良人智ノ解發ナル語モ只之
ヲ文學上ノ意義ニ取ルヘカラス獨リ之ヲ世人
ノ實事上ニ用ユル意義ニ取ラハ其真意ヲ失フ
ナカラシム
假令ハ一部ノ人民アリ之ヲ隣部ノ人民ニ比ス

レハ生計有用ノ品物モ豊カニ且ツ物産ノ製造
モ速カニ又其派出モ巧ミナラハ之ヲ稱シテ其
開化ノ度隣部ニ勝リタル者ト云ハ、之ヲ否ス
ルモノナカラシ

第二「^アニツク」戰ノ末ニ於テ羅馬合衆政治ノ時
仁義ヲ旨トシ國民ヲ保護シ日月ニ強盛トナリ
終ニ歐羅巴亞細亞兩大洲ヲ渾一セントセシ基
ヒヲ開クノ日ニ當ツテ其世風又日月ニ改良シ
テ其國光旭日ノ始メテ昇ルカ如キ時ヲ以テ其
國威世風駐マツテ進マス惡風醜俗正ニ熾ニナ

ラントシ既ニ衰世ニ趣クノ萌シアリシ「^アガ
ス」^ル帝ノ世ニ比スルニ其文明開化ヲ稱スル
ニ至ツテハ世人之ヲ「^アガ」^スタス帝ノ朝ニ歸シ
テ合衆政治ノ世ニ歸セス

首ヲ四シテ佛國ヲ顧ミヨ千六七百年代ニ於テ
此國ノ人民ノ富榮歐洲諸國ニ及サル遠ク人民
ノ勉業國家ノ富實ニ於テ遙カニ英蘭二國ノ下
ニ居レリ然リ而シテ之ヲ歐洲億万ノ人民ニ問
ヒ之ヲ諸史ニ尋ヌルニ千六七百年代歐洲ノ文
明國ヲ論スルニ至ツテハ常ニ佛國ヲ以テ首長

トナセリ

是ニ因テ之ヲ觀レハ文化ナル語ハ其意義國家
ノ富厚祥福ニ止マラス猶其包含スル所大ニシ
テ之ニ加フルニ一身ノ改良、心智ノ解發ヲ以テ
シ之ヲ總稱スレハ人道ノ解發ヲ兼ルモノナリ
抑モ羅馬佛蘭西二國ノ開化ノ首長ト稱ソレシ
所以ンノモノハ當時此二國人道ノ解發諸國ニ
勝リ傍國ニ特出シタルヲ以テナリ此二國蜂蟻
ノ敢テ比肩スヘカラサル靈妙不可思議ノ人徳
ヲ解發シタルヲ以テ其交際上ノ瑕疵ヲ掩フニ

餘リアリ是レ其文化ノ賞譽ヲ獨リ専ラニセシ
所以ニナリ此二國ノ人民交際ノ道ニ於テハ犹
ホ頗ル備ハラサル者アリシト雖モ其心身ノ徳
ノ獨リ著シク秀テタルヲ以テ其聲價ヲ高ムル
ヲ得タリ當時佛國生計ノ便宜頗ル欽ケタル
所アリ天賦ノ權利甚シク壓抑サレタリシモ顯
名ノ人輩出シ文詞學問藝術ノ盛ニナル開闢以
來當時ニ至リシマテ未タ此ノ如キ者起ラザリ
キ是ノ如ク天賦靈妙不可思議ナル心智ノ解發
スルモノ是乃ハ千世人ノ普子ク稱シテ文明ト

云ヒ開化ト唱フル所ノ者ナリ
是ニ由テ之ヲ觀レハ文化ト稱スヘキ者ハ國家
ノ開化ト人心ノ開化トノ二者即チ開化ノ二基
ヲ魚子サレハ生々活潑ナル能ハス又其光輝赫
々タル所以ニノ者ハ全ク此二基ノ上ニ屬スル
ヲ見ルヘシ國家ノ開化トハ交際ノ制法ノ改良
ヲ云ヒ人心ノ開化トハ心志ノ解發ヲ云フ故ニ
身外ノ事物活潑ニシテ次第ニ廣大善良トナリ
心志ノ勢力高上ニシテ仰キ望ニテ之ヲ敬重ス
ヘキモノ相並ンテ顯ハルレハ^{タト}倭令交際ノ制法

ニ頗ル不足ナルモノアルモ自カラ之ヲ文明ト
信シ他人又之ヲ贊シテ開化ト云フヲ發明スヘ
シ
之ヲ歴史ニ尋子テ吾カ説ノ誤謬ナラサルヲ知
ルヘシ古來著明ナル事業ノ能ク文化ノ進歩ニ
功アルモノヲ徧子ク歴覽スルニ吾カ正ニ説キ
示シタルカ如ク國家ノ開化ヲ以テ之カ精神ト
セサレハ必ラス人心ノ開化ヲ以テ之カ魂魄ト
セサルモノ未タ曾テアラサルナリ其功業ヲ數
フレハ其開化ノ心ニ在ルモノハ意志行狀ノ改

良ニアリ其開化ノ國ニ屬スルモノハ交際ノ政
良ニアリ之ヲ聖教ニ於テ見ルニ其教化ヲ傳播
スルノ初ノニ當ツテ自カラ其教法ノ國事ノ開
化ニ関涉ナキヲ明説シ奴婢ニ命シテ其主ニ忠
ナラシメ當時不正ノ政法方ニ甚シキ世ナリシ
モ之ヲ矯正譴責セシノ言アリシヲ聞カス然リ
而シテ世人聖教ヲ以テ文化基本ノ最大ナルモ
ノ、一トスル所以ノモノハ其心志ヲ改正シ其
智慧道德ヲ解發スルノ大功アリシヲ以テナリ
上ト相反シテ人心ノ改良ヲ進メス只其交誼ノ

進歩ニ益アル事業ヲ歴史ニ見タリ是亦文化ニ
大功アル者タル疑ヲ容ル、所ナシ活眼ヲ以テ
活史ヲ通覽セハ古來若干ノ大事業ノ能ク文化
ヲ振興セシモノニシテ此ニ基ヲ外ニシタルモ
ノアルヲ見サルナリ
吾己ニ卿等ニ示スニ文化ノニ基ヲ以テセリ然
ルニ其一ヲ備フルモノ之ヲ稱シテ亦文化ト云
フヘキヤ又假令此ニ基其初生ハ同時ニ於テセ
サルモ此ハ彼ヲ生シ彼ハ此ヲ産シテ永ク孤立
スル者ナラサルヤヲ下ニ於テ再ヒ推究セント

ス

是二者ヲ推究セントスルニ三則ヲ要ス第一則ハ二基ノ本質ヲ求メテ二者ノ性孤立スヘキヤ並立セサルヘカサルヤヲ推究スルニアリ第二則ハ之ヲ歴史ニ求メテ二者ノ孤立スルカ或ヒハ彼此互ヒニ相生出スルヤヲ推究スルニアリ第三則ハ此事ニ於テ世人普通ノ議論ヲ推究スルニアリ

國事ノ改革若クハ民權ノ消長等ノ如キ國勢ノ大變革ハ其初發ノ時自然ニ仇敵ヲ引起スモノ

ナリ

仇敵者ノ言ニ曰ク此ノ如キ國勢ノ變革織茂ノ利益アルヲ見ス其不利ナル所以ヲ言ハ、人道人智ノ解發未タ此ノ如キ變革ト並馳スル能ハス夫レ心志ハ人ノ最尊重スヘキモノナリ故ニ此ノ如ク心志ノ解發ニ害アル變革ハ之ヲ偽開化ト云ヒ真ノ開化ト言フヘカラスト然ニ變革ノ党又之ニ答ヘテ國勢ノ改革進步スルモノハ随ツテ心志ノ解發ヲ導キ國勢ノ幸福ナルニ随ッテ人ノ心志モ亦良善ナル議論ヲ主張シテ此

疑案原告被告両党ノ間ニ永ク是非勝敗ノ裁決ナ

ク淹滞セリ

前條ト相反シテ尙シ心志ノ解發行ハル、モノ
ナラシメハ其希望スル所果シテ何者ナルヘキ
ヤ人民交際ノ創メヨリ諸宗ノ教祖聖人君子、騷
客、理學家ノ如キ皆世ノ風俗ヲ善美ナラシメン
ト勤勞セシ者ハ其希望果シテ何者ナルヘキヤ
是皆世事ノ改良ヲ欲シ人間ノ歡樂ヲ公令セン
ト願ヒシニアラスヤ是ニ因テ之ヲ考フレハ其
歸着スル所果ノ何如シ之ヲ決スル極メテ易シ

只億兆ノ聰明ヲ以テ確知スル所ニ於テ決スヘ
キノミ億兆ノ確知スル所果ノ何者ナルヘキヤ
億兆ノ確知スル所ハ乃ハチ文化ノ二基相親ン
テ共ニ立ツヘク獨リ之ヲ離析シ難キニ在リ故
ニ文化ノ一基既ニ来レハ直チニ又一基ノ繼テ
来ラントヲ希望ス故ニ此二黨ノ相争フモノハ
天理ノ自然ニ出ツル所ナリ是ニ於テ吾此疑案
ヲ断シテ曰ク尙シ國勢ノ變革心志ノ解發行ト相
背馳スル片ハ之ヲ攻ルモノ紛然群起シ尙シ又
國勢ノ變革能ク心志ノ解發行ヲ助クルモノナラ

シノハ特ニ之ヲ攻ル者ナキノミナラス億兆皆
悦シテ其成業ニ盡カスヘシト故ニ吾是ヲ以テ
文化ノ二基ハ相親シテ並馳シ又互ヒニ相生發
スルハ人ノ生レナカラニ知ルノ事理タルヲ決
ス右第三則

今試ミニ之ヲ歴史ニ求ムルニ又前條ト全ク相
符合シ人智ノ解發ハ盡ク國家ニ社^{サカイ}ヒシ因勢ノ
進歩ハ皆ナ人道ニ益アリ然リト雖^レ此二基必
ス同時ニ並起ルヲ期スヘカラス一基先起リ其
光輝赫灼トシテ其固有ノ道ヲ專ハラ進歩セシ

メ其後者ノ起ルニ至ルマテ千百ノ歲月ヲ經千
百ノ妨碍憂故ヲ過キテ始メテ其伴侶ト相合シ
文化ノ大業ヲ成就スルモノアリ此^{トモトチ}ノ如ク千百
ノ歲月事故ヲ經歷スルト雖^レ此二基ノ形跡ヲ
精察スレハ其脉絡各相貫通スルヲ會得スヘシ
天道ノ運行ハ昨日種シテ今日其實ヲ収メント
スルカ如キ狭小ナル版^{イロ}畝ノ中ニ行ハレス是故
ニ未タ時ノ宜ヲ得サレハ千百載ヲ經ルモ猶其
實ヲ収メサルハ其時ヲ待ツモノナリ天翁一度
歩ヲ遷セハ人間若干代ノ子孫將ニ白頭ナラン

トストホーマルノ詩ニ見ヘタリ之ヲ聖教ニ考
フルニ其能ク人心ヲ善良ナラシメタル後復又
之ヲ用ヒテ以テ國家ノ福祚ヲ盛昌ナラシメタ
ル其間若干ノ歲月事故ヲ經歷シタルヤ斯ク歳
月事故ヲ經ル多シト雖モ文化ノ二基ノ進歩ヲ
數フレハ必ラス先ツ指ヲ聖教ニ屈ス右第二則
今又更ニ文化ノ二基ヲ其元原ヨリ査察スルニ
前二條ト其符ヲ合ス爰ニ人アラニニ中心悟ル
所アル片ハ既ニ其初發ノ時ニ於テ必ラス己カ
發覺シタル新理ヲ以テ之ヲ廣布シ信ヲ世ニ取

ラント欲スヘシモシ又天道ノ一端ヲ探知スル
アレハ直ニ其天賜ノ道ヲ廣布セント自カラ天
使ノ念ヲ懷キ又傍ハラ私欲ノ念ヲ懷キ己カ道
ヲ弘メテ其利ヲ収メントシテ自カラ止ム能ハ
サルナリ古來内自カラ天理ヲ發悟シ依テ又タ
人ヲ教化シテ福祚ヲ世ニ流シ世上ノ面目ヲ一
新セシ諸高僧等ノ思念願望モ是ニ外ナラサル
ナリ

若又國勢改良シテ人民ノ權利家産ノ分配ニ不
公モ少ナク其國勢更ニ善義ニ遷リ政府人民共

ニ形状次第ニ良善トナルアラハ此ノ如キ國勢ノ改良ハ人民心思ノ上ニ同感ヲ起スヘキヤ否ヤ國ノ政法良善ニシテ正大ノ道行ハル、其國人ヲシテ必ラス清廉ニ趣ムカシムヘキ、猶ホ人智ノ改良カ國家ノ福祚ヲ興セシト同一理ナリ故ニ人心ハ國法ノ善ナルカ為ニ日ニ善ニ遷リ國事ハ人徳ノ生長スルニ随ツテ月ニ美ニ趣ク此ニ基實ニ之ヲ令ツテ孤立セシムヘキラス其相合スルヤ千百ノ年月事故ヲ經歷スルモノアルモ早晚相合スルノ秋アルハ一定ノ理

ニシテ人々天賦ノ靈智之ヲ信シ各個歴史ノ實事之ヲ證ス 右第一則

此題目ノ下ニ載スヘキモノ尚若干ヲ餘スト雖其概畧ヲ論シテ文化ノ本質職分ヲ論シ又其貴重ナルヲ示スニ於テハ既ニ足備スルヲ以テ此ニ於テ論說ヲ卒ルヘキカ如シ然レモ猶ホ二三ノ論說ヲ要スヘキ者ヲ餘セリ此論說タルヤ歴史上ニ於テセス專ハラ忖度ニ出テタリトトヘ其事忖度ニ出タリト雖モ敢テ虚謬ノ説ニアラス又タ毎念必ラス顯ハル、ノ議論タルヲ以

テ亦文明史ヲ學フニ欠クヘカラサルノ重事ナ
リ
吾カ前ニ説キタル世事ノ改良。人智ノ解發ナル
文化ノニ基ナルモノハ何ヲカ歸着トレ何ヲカ
目的トスルヤ心思聰明ヲ解發スルモノハ其目
的の世事ヲ善ニ進ムルガ為カ將タ此世ニ居テ安
全ナランガ為カ又タ世事ノ改良開化ハ心智ヲ善
ニ導ヒクガ為ニ設ケタルグライ戲臺ナラシカ之ヲ概
言スレハ罔ハ人ノ為ニ設ケラレシカ將タ人ハ
罔ノ為ニ生セラレシカ是ノ如キ疑案ヲ解シト

欲セハ須ラク左ノ三事ニ注意アラシムヲ要ス
其一ハ人ノ天ニ受ケシ所ノモノハ交際上ニ限
ルモノナランカラ檢シ其二ハ罔事ヲ言ヘハ人
事ハ既ニ其裡ニアルカラ考ヘ其三ハ人ノ務ノ
ハ只斯世ニ止マラス尚ホ世外ニ関渉スル所ノ
モノアラシカラ察スルニアリ

當今其名最著ルシキ大博士某ノ言正ニ此疑ヒ
ヲ解クニ適當セル名言ナリ蓋シ内ニ自カラ悟
覺スル所アツテ言フカ如シ某ノ言ニ曰ク人ハ
斯世ニ生レ斯世ニ生長シ又タ斯世ニ死シテ其

天命ニ從カツテ行ナフヘキ者タリ而シテ其天命タルヤ只之ヲ斯世ノ事ニ盡シテ止ムモノナラス尚ホ頗フル高上ナル性ヲ備ヘ斯世ヲ去ルノ後此身ヲ天帝ニ致シテ視察スヘカラサル上界ニ登リ思想モ及ハサル幸福ヲ受クヘキ務ノアリ吾人都テ相均シキ身軀ヲ持チナカラ各自特別ノ生ヲ保チ又々長生不死ノ生物タルヲ以テ吾人各自ニ斯世ノ務ヨリモ更ラニ高ク尚キ務メアリ

其ノ言至レリ盡セリ更ニ吾カ贅言ヲ添フルヲ

要セス此書ノ末ニ至リ現世ニ論スヘキ者ナキニ及ンテ即カラ再ヒ前ノ如キ疑ヲ發シ人ノ事業如此耳カ猶未タ盡サル所ノ者アルヘシトノ思想ヲ生ス是レ文明史ノ吾人ヲ導ヒテ此疑ヲ起サシムルニシテ最大ノ思想ヲ要スヘキ最後ノ疑問ナリ故ニ詳論ヲ後ニ譲リ今爰ニ只其方向性質ヲ説ヒテ足ランカ

編首ヨリノ諸論ニ因テ見レハ文明史ハ二意ヲ包テ又其源ヲ兩ツニスル者ナリ設使史者ヲシテ數百年間人ノ肚裏ニ住シ其人ト共ニ一繁華

ノ國ニ居ルヲ得セシノハ其人ノ肚裏ニ現スル百般ノ形勢千種ノ變革精ク之ヲ學ンテ詳カニ之ヲ記スヘク是ニ於テ人心ノ一文明史ヲ編ムヲ得ヘシ史家又肚裏ニ住シナガラ世事ノ大戲臺ノ中央ニ其位置ヲ占ムルヲ以テ世事百般ノ形勢變革モ亦精ク之ヲ學ンテ詳カニ之ヲ記スヘク是ニ於テ又タ世事ノ文明史ヲ編ムヲ得ヘシ既ニ二史編輯ノ業卒ツテ再ヒ之ヲ通覽セハ彼此相互ヒニ連合シテ今ヲヘカラサル一恰カモ影ノ形ニ於ケルカ如キノ發明セン但

シ事實ヲ一々ニ掲ケテ其解シ易カラシムヲ望ムハ又タ之ヲ今ツテ二物トナシテ特別ニ之ヲ示スモ亦難カラス吾カ今將リニ解説セントスル所ノモノハ人心ノ文明史ヲ後ニシテ先ツ世事ノ文明史ヨリ手ヲ下サン其世事ノ文明ニ関スル者ニシテ吾カ平生ノ學習ニ因テ得ル諸事ヲ殘ス所ナク卿等ニ示シ又因テ起ル所ノ諸問答ヲモ明辨セント是レ吾願ナリ然レハ是業タルヤ頗ル日時ヲ要スヘキヲ以テ轄ク之ヲ閱キ目今解説スル所ハ唯世事ノ文明ノ概畧ナル

ノミ
吾カ第一ノ目的トシテ説ク所ハ羅馬滅亡便チ
文化初ノテ生スルノ時ニ於テ其元貞ヲ發覺シ
且ツ當時世形ノ如何ナリシヤヲ精察シ然ル後
其元貞ヲ一々ニ選出シテ之ヲ卿等ノ前ニ並ヘ
テ當時ヨリ目今ニ至ルマテ千五百年間文化ノ
進歩ノ模様ヲ明ラカニ解カン
文明史ヲ學フノ際吾人自然ニ目今ノ文化ハ未
タ襁褓ヲ離レサレ孩兒タルヲ領會スヘシ吾人
天受ノ諸道衆德ヲ完全スルニ至ルマテ尚ホ若

千ノ年期ヲ要スヘキヤ之ヲ預算スル能ハス又
將來人道ノ進前スル針路ヲ悉ク探盡サント欲
スレバ是亦未タ人智ノ及フ所ニアラス設人ヲ
シテ自己ノ肚裏ニ入り其裡ニ現スル最モ高尚
ナル心思希望ノ世道人倫ニ関スルモノヲ寫ス
テ得セシノ之ヲ以テ目今ノ世事人事ニ比ス
レハ世事人事尚ホ未タ終カニ飛フテ習フノ
雛雀ニ等シカルヘシ既ニ開化ノ道ニ進歩シテ
數百ノ山阪川河ヲ經過シタリト雖モ前路猶遙
遠ナルヲ覺フヘシ然ク未タ文化ノ善美ヲ盡

ス能ハサルモ當今ノ形状ヲ以テ之ヲ前千五百
年間人々ノ交際思想ニ自由ナク暴政偽教ノ為
ニ身ハ甚シキ勞苦ヲ受ケ心ハ極メテ昏愚トナ
リ人ノ人タル權利ヲ自カラ用ユル能ハザリシ
ニ比スレハ當今ノ世ニ生レシ者豈之ヲ幸福者
ト言ハサルヘケンヤ前千五百年間人心ノ害ヲ
被フリタル恰カモ身軀ノ害ニ於ケルカ如クナ
リシ未タ不足ナキト云ヘカラサルモ頗ル心思
ノ調和自由ヲ得タル者實ニ今ヲ以テ鼻祖トナス
又試ミニ世事ヲ以テ相比スルニ古人ノ猛惡不

正ナルハ今人ノ間雅方正ナルニ及カサルカ如
ク吾人万事ノ形状之ヲ父祖ノ世ニ比スレハ遙
カニ幸福ヲ増加セリ
猶ホ注意ヲ要スヘキモノハ吾人目今ノ幸福ヲ
悦フニ過度ナラサルニアリ目今ノ幸福ヲ悦
ブ其度ヲ過クル者ハ倨傲ト怠惰トノ二惡ニ誘
ハレ目今ノ進歩ヲ以テ心思ノ解發既ニ至レル
モノト誤マリ又世形ノ歡樂ナルニ迷ハサレテ
終ニ活氣ヲ失ナフテ昏愚トナルヘシ是レ實ニ
吾カ身上ニ現スル病ナリ知ラス卿等モ亦同シ

ク此病アリヤ吾レ先ツ試ミニ吾カ自カラ経歴
實驗スル所ノ病症ヲ卿等ノ前ニ演ハシ吾レ實
ニ欲ニ充易ク事ニ倦易キノ弊アリ往日吾カ志
願極メテ大ニシテ且ツ多カリツルカ之ヲ世事
ニ試ミ實行ニ施コスニ及ンテ屢困難失誤ニ會
シ終ニ疲困退縮セリ其退縮ノ速カナルヲ其激
発ノ疾キカ如クナリ吾人怠傲ノ二惡ニ制サル
、一ナク凡ノ事ヲ為スニ當ラハ須ク先ツ己カ
才器學問ト地位トヲ量ツテ其能スヘキ者ハ之
ヲ為シ其能スヘカラサル者ニ於テハ之カ為メ

ニ心ヲ勞スルヲナク決シテ今外ノ事ヲ望ムナ
カルヘシ又其間世ノ文化ヲ進ムヘキ道義ニ基
ツキ之カ害トナル者ヲ避ケンヲ注意スヘシ
古時歐洲攻畧戰伐詐偽妄誕至ラサル所ナク
洲ノ人民四五百年間悲愁ノ中ニ生ヲ送リタル
野蠻ノ時代ハ早ヤ古話トナリ之ニ代フルニ目
今歡樂和調ノ世ヲ以テセリ道義ノカ勃興シテ
カヲ恃ミ同類相害スルカ如キ禽獸ノ爭競ヲ能
ク制服シ極善極義ノ心思發露スヘキノ義時日
月ニ相近ツカントス然ルニ時運未タ到ラサル

國史文庫
卷之十一

ニ先タツテ迂^ウ濶^クノ希望ヲ起シ謠^{イハサセ}唐ノ意思ヲ懷
キテ将来永遠ニ期スヘキ者ヲ知ラス直チニ之
ヲ目前ニ致サント企テ既ニシテ其得ヘカラナ
ルヲ見レバ慨然世ヲ厭フカ如キアルナカレ
前人既ニ吾人ニ遺^ユスニ是ノ如ク多福ヲ以テセリ
故ニ吾人亦須^{スベキ}ラク後者ニ遺^ユスニ加フル所アル
ヘシ子孫ハ後來ニ於テ吾人ノ善惡ヲ評論シ國
家ハ生前ニ吾人ノ善惡ヲ查察ス是ヲ以テ吾人
須ラク身ヲ行ナフ都テ文化ノ理ニ基ツキ国法
ニ因リ天道ヲ踐^ツムテ自由ヲ保護スヘク又タ世

間万事ノ是非曲直ヲ已カ前ニ致シ之ヲ裁決ス
ヘキノ權ヲ有^クテハ世人モ亦吾カ行作ヲ查察ツ
シテ吾カ曲直ヲ裁決スヘキノ權アルヲ宜シク
骨ニ銘シテ之ヲ忘ルハナカルヘキノ訓戒ナリ

歐羅巴文明史卷之一終

歐羅巴文明史卷之二

佛國　ギゾー氏　原著
米國　ヘンリー氏　譯述
日本　永峰秀樹　再譯

歐洲文明　歐洲文明ノ形狀他洲ニ異ニシ
又其諸元　實ヲ記ス

吾レ前編ニ於テ卿等ニ文明ノ形狀ヲ示スニ時
世ニ関セス地方ニ拘ラス全タク之カ本原ヲ探
リ之ヲ各時各方ニ用セテ妨ナキ總論ヲ以テセ

リ既ニ其本原ヲ知ラハ今當サニ特ニ歐羅巴ノ
文明史ヲ卿等ニ示スヘキノ時ナリ然レ正史
ヲ學フニ先タツテ歐洲文明ハ獨リ他洲ノ文明
ニ異ナルヲ會シ以テ舐ク彼此ヲ區別スヘキノ
諸事ヲ預メ學ハサルヘカラス

歐洲近古ノ開化ニ先タツテ開化シタル亞細亞
歐羅巴希臘羅馬ノ國々ノ文化ノ本原ヲ尋スル
ニ各自只一種ノ政道ヲ認得テ之ヲ以テ其國法
ヲ制シ其風俗ヲ成シ又其心志ヲ教誨スルノミ
ニシテ衆政道ヲ合セ兼スルモノヲ見ズ

埃及エジプトヲ以テ之ヲ例スルニ此國ノ本トスル所ノ
政道ハ理學ニシテ風俗記錄其他都テ埃及エジプト昔時
ノ文明ト稱スル所ノ者盡ク理學ナラサルハナ
キナリ又試ミニ印度インドヲ取テ之ヲ觀ヨ均シク亦
國法人情皆理學ニ本モトツカサルハナカラシ又之
ヲ他方ニ驗スルニ其本トスル所只勢力ニアル
モノアリ又專ハラ民政ニ歸スルモノハ小亞細
亞アノアイヲニアリシリリアリノフフ子シアニ於ケル
カ如ク專ハラ貿易ヲ勤トスル合衆諸國ニ多ク
之ヲ觀ル之ヲ概言スレハ昔時文化ノ政道ハ都

テ一道一理ヲ認メテ之ヲ國法トナシ風俗トナシ又タ議論ノ本トナシテ時ヲ歴テ之ヲ變スルヲナク又タ其中ニ他政道ノ並ヒ行ハレシモアルヲ見ス儘一二ノ他政道線カニ其中ニ生息スルモノアリト雖^ロキ[！]山^{世界第一ノ大ノ}蟻^{アリノトク}蛭ニニ於ケルカ如シ前諸國ノ文化ノ政道ニ於テ單ニ或理ノ勢力專ハラニシテ他政道敢テ之ト争フモノナキニモアラザリシカ古史ヲ讀ハニ埃及希臘イトルスカン等諸國ノ武夫力僧徒ト争フタル事又其

他諸國ニ於テハ或ハ同族黨^{同族ノ次第ニ増殖シテ國トナリシモ}ノカ外國交親ヲ拒ミタル事或ハ諸侯力民權強大トナルヲ妨ケタリシ事共ノ争戰許多ヲ載スルヲ觀ルト雖^凡皆一定ノ說ナク信ヲ取り難シ時トシテハ前條ノ争戰若干ヲ後代ノ國史中ニ散見セリト雖^凡常ニ其争戰忽チニ熄^ヤテ久シキヲ保ツ[！]ナク勢力強大ナル單一政道全勝ヲ得テ獨リ全權ヲ握リ諸政道ノ之ト並立セント相争フタルモノハ偶然發現スルノ怪事ト看做スニ過キス

是ヲ以テ其迹ヲ尋スレハ甚相異ナルアリト雖
凡昔時ノ文化ハ概シテ單一ノ政道ヲ本トセリ
希臘國ノ如キハ單一ノ政道ヲ本トセシヲ以テ
其國事ノ改良ノ迅速ナリシハ古今ニ其比ヲ見
ルナシ然ルニ僅カニ文化ノ名譽ヲ受ケントセ
シハニ於テ既ニ傾覆ニ及ヒ其傾覆ノ迅速ナリ
シモ均シク世人ノ怪愕ヲ起シタリキ其傾覆ス
ル所以ニヲ考フルニ其開化ヲ發生セシ本源既
ニ涸乾セントスル時ニ及ンテ之ヲ輔相スルノ
他政道ナク之ニ繼キテ其位ニ處ルヘキノ他政

道モナカリシヲ以テナランカ

又印度埃及ノ如キ亦各單一ノ政道ノ勢力廣大
ナリシ國共ナリシガ其迹ヲ尋スレハ希臘ト大
ニ異ナリ此二國ハ國勢ニ行動ナク方古ニ亘
ツテ衰セス國家ハ存シ國法ハ固シト雖凡文化
ノ進歩スルヲナクシテ寂然トシテ活氣アルヲナ
ク恰カモ睡ルカ如ク全ク死スルニ似タリ
是故ニ其形ハ別ニ其名ハ異ナルモノアリト雖
凡古時ノ文化ハ都テ暴虐ノ政ヨリ成ル者ニシ
テ國事ハ都テ勢力ノ最モ廣大ナルモノニ出テ

其法ノ外ニ出ルモノハ之ヲ罪シ之ヲ除キ恣
マ、ニ行ナフテ顧慮スル所ナカリシナラン
國政ニ單一ノ道ヲ用ヒタルガ為ニ自然文學思
想マテモ亦均シク同シ道ヲ尚トヒ近時歐洲ニ
齋シ来リタル印度ノ記録類ヲ覽ルニ教法人倫
正史野乘詩歌等ニ至ルマテ一人同意ヲ以テ同
事ヲ記スルカ如ク其軌轍ヲ同フシ其生計圖法
ニ聽ク所ノ純音調子ノ上ケ下ケナキト云フヲ
復其心志思想ニモ聽ケリ希臘ハ才智學識ヲ蓄
フル廣大ナルノ國ナリト雖凡尚ホ于今單一ニ

シテ雜ラサルノ學問藝術ノミ專ハラ行ハル、
ナリ

前條示ス所ノ古時開化國ノ形狀ヲ以テ之ヲ歐
洲近古ノ開化ニ比スレハ一見シテ其異ナルヲ
知ルヘシ歐洲近古ノ開化ハ古時諸ノ開化ノ如
ク單純ノ政道ニ因ラス衆理並興リ混亂シテ靜
謐ナラス人權神權理權王權侯權民權其他諸般
ノ國家ノ開化ニ益アル法律人品等ニ至ルマテ
都テ高ク大ナル自由繁榮勢力ヲ得肩ヲ比ナハ相
頡頏シテ立チ一政道モ獨リ權ヲ專ラニスルモ

ノナク又タ一政道モ全タグ挫敗セス古時ノ政
法ハ或ハ君主獨權或ハ神政或ハ民政杯ト各種
ノ政道迭ニ興リ迭ニ亡ヒテ萬民ノ形勢ハ目前
獨リ隆シナル一政道ニ本ヒセシカ歐洲近古ノ
政道ハ之ニ反シ衆政道ヲ集ノテ之ヲ合セタル
者ニシテ純雜ノ二王權政、神政、合邦政、侯政肩ヲ
並ヘ日ヲ同フシテ立ちタトヘ政法カク殊異ナ
ルモ却ツテ又相類似スル所アリ恰カモ邦國ノ
親族兄弟ト云フヘキガ如シ是レ歐洲開化ノ獨
リ他ノ諸開化ト異ナル所以ンノ形状ナリ

心志思想ニ於テモ歐洲ハ同シク各色ノ心思ヲ
保チ又其爭競止ムナク神權、王權、侯權、民權ノ
説紛々ト並起リ罷々ト論説止ムナキヲ以テ
能ク單一政道ノ專政ヲ防キ各種ノ政道ニ限以
テ立ルヲ得タリ單一政道ヲ高ノント立論
シタルモノモ其所願ヲ遂ケタルモノナク獨
裁權ヲ主張セシモノモ民權ヲ固執セシモノモ
均シク其結果ノ恐ルヘキヲ看テ退避畏懼シテ
半途ニ至ツテ之ヲ止メ古時ノ如ク單一ノ政道
ヲ固ク執ル者ヲ見ス又特ニ歐洲政道ノ獨リ他

ニ異ナルモノハ獨立ノ所願甚劇キモノ、傍ラ
ニ甚タ順從ナリ易キモノ佳シ忠義ノ念甚タ篤
キ人又タ自主ノ念熾シニ世人ノ為メニ己カ所
願ヲ制サル、一ナク單獨不羈ニ身ヲ立ントス
ルノ志願尤モ切ナリ以テ歐洲近古ノ心思各殊
ナル恰カモ世態ノ各殊ナルト同一一般ナルヲ見
ルヘシ
文學ニ於テ之ヲ觀ルニ均シク亦同形狀ヲ為セ
リ之ヲ文辭ノ上ニ觀ルニ其文辭ノ巧妙ナル今
時實ニ古時ニ及カスト雖凡其心志思想ノ高深

ナルヲ論セハ今人遙カニ古人ヲ超越セリ心ヲ
勞スル多キモノハ其智ヲ余タサルヲ得ヌ又器
械材料ニ豊富ナルモノハ瑣末ノ事ニ心ヲ勞ス
ル甚シカラス是レ今人ノ文辭古人ニ及カサル
所以ノ理ナリ歐洲文明進歩スルニ随ヒ心志思
想ヲ要スルノ量次第ニ増加スルヲ以テ随ツテ
又次第ニ此ノ如キ瑣末ノ事ヲ專心講究スルノ
難キヲ増加セリ
之ヲ万事ニ尋ヌルニ今時ノ文化ハ古時ノ文化
ヨリモ豊富ナリ古時ノ或藝或術ヲ以テ今時ノ

モノニ比スレハ今時ハ實ニ古時ニ劣リ凡之ヲ
 共算スレハ今時歐洲ノ文化ハ遙カニ古時ノ文
 化ヨリモ隆盛豊富ナリ歐洲文化ハ既ニ千五百年
 ノ久キヲ歴タリ其進歩希臘ノ如ク疾速ナラサ
 ルモ其行路每歩ニ新鮮ナル英氣ヲ獲千五百年
 ノ久シキヲ歴テ今日ニ至ルモ猶ホ其進歩休期
 ナク又之ニ加フルニ自由ノ氣ヲ以テスルカ故
 ニ今日ノ進歩ハ昨日ノ進歩ヨリモ疾ク明日ノ
 進歩ハ今日ヨリモ更ラニ速カニシテ止マル所
 ナシ異時他洲ノ文化ト稱セシモノハ單一ノ政

道獨リ最大無限ノ勢力ヲ得ルヲ以テ自然暴虐
 ニ趨キ歐洲方今ノ文化ハ單一ノ政道獨リ大權
 ヲ握ル能ハサルヲ以テ自然目今專ハラ行ハル
 、所ノ自由ナル者ヲ生セリ政法ノ諸道ハ終ニ
 相制服シ難キヲ各自察知スルヲ以テ相互ヒニ
 和平ヲ希望シ終ニ其色ヲ和ラケ其居ヲ共ニシ
 相約シテ各適當ナル文化ノ部令ヲ有ツヘキニ
 決議シ今日ノ形勢トハナレリ是ヲ以テ他邦ニ
 在ツテハ單一ノ政道獨リ專横ナルヲ以テ暴虐
 ヲ醸成シ歐洲ニ在ツテハ各種ノ政道ヲ合セ之

ヲシテ互ヒニ相戦ハシメ終ニ能ク目今吾等カ
口ヲ極メテ贊嘆スル所ノ自由ナルモノヲ發現
セリ

歐洲文化ノ他洲ニ接ンテ又タ其正道ヲ得タル
モノハ斯ク各種ノ政道ヲ合併セルヲ以テナリ
今其皮膚ノ穿鑿ヲ捨テ、更ラニ深ク内部ニ入
リ肺肝ノ結構ヲ見ハ更ラニ歐洲文化ノ優等ナ
ルノ理アルヲ領會スヘシ今試ミニ全世界ノ事
物ヲ歴覽センニ其政体ハ盡ク之ヲ歐洲ニ備フ
ル者ハ外ナラスシテ其争競ハ正サニ歐洲ニ起

リタル者ト相同シ夫レ一個ノ道、一個ノ法、一個
ノ論、一個ノカヲ以テ全世界ヲ其版圖ニ入レテ
能ク安固ナラシメ又已レト異ナル道法論カハ
之ヲ排除シテ獨リ權ヲ專ハラニセントスルモ
ノハ只理ニ合ハサルノミナラス正ニ能クスヘ
カラサルノ事タリ故ニ自然全世界ノ形状ハ各
種ノ力、理、法制相錯綜シテ互ヒニ變改スル所ヲ
リ常ニ争競止マス其盛衰ヲ迭ヒニシテ又嘗テ
全勝全敗ニ至ル者ヲ見ス是ノ如ク世界ノ形状、
意志、理義ノ各種皆カヲ盡シテ相争競スル間ニ

自然各自目的トスル所ハ同一所ニ歸スルヲ見ル。恐クハ其目的ニ達スルハ難カルヘキモ自由ト勤勉トノ輔相ヲ以テ人類ノ方向斷ヘス其所願ノ途ニ近ツキタリ是ニ由テ之ヲ觀レハ歐洲ノ文化ハ世界ノ形狀ヲ都テ一部ニ聚メタル者ニシテ之ヲ尋子テ一個ノ定名ヲ與フヘキモノナク各種ノ道理政法等ヲ總攬シタルヲ以テ畢竟世界ノ大戲場ト云フテ可ナラシムカ
歐洲ノ文化ハ永久不變ノ道ヲ踐ミ天帝ノ希望ニ協ヒ天帝ノ命スル道ニ隨フテ行クモノナラ

ニカ是レ歐洲文化ノ他ニ秀ツル所以ノ本原ナリ
文明史ヲ學フニ於テ各種ノ政道並立シテ相爭競スル者實ニ歐洲文化ノ精神ナルヲ常ニ心ニ記シテ忘ル、一ナカルヘシ後編更ニ實事ヲ舉テ之ヲ證セン然レハ前ニ説キタル各種ノ政道初癸ノ辰ニ於テ既ニ其形ヲ成セリ故ニ之ヲ探リ索ムルヲ敢テ難キニアラス夫レ羅馬滅亡即チ文化初癸ノ辰ニ於テ世上ノ形勢既ニ歐洲文化ヲシテ爭競混亂ナラシムルノ基ヲ開キ又其

繁榮スヘキノ形状ヲ示セリ吾レ是論ニ於テハ
 卿等ノ允諾ヲ必ラス得シヲ欲ス因テ古時ヨ
 リ遺シテ今時ヲ惠ミ以テ文化ノ諸源トナサシ
 ムル所タル羅馬ノ國法民意思想ヲ尋テ歐洲
 當時羅馬滅亡ノ時ノ形状ヲ以テ卿等ニ示サントス卿
 等此ニ至ツテ當サニ初メテ吾説ノ虚ナラサル
 ヲ信スヘキナリ
 前義ヲ明解セント欲セハ須ラク先ツ羅馬帝國
 ノ何物タルヤ其國狀ノ如何ナリシヤヲ明白ニ
 スヘキナリ

羅馬帝國ノ其初シハ只一市邑ノ中ニ會合シタ
 ル一夥ノ人民ニシテ其政法ナルモノモ只一市
 邑ニ定メタル條例ナルノミ
 唯羅馬ノミナラス當時伊太利國中羅馬近傍ニ
 在ルモノ都テ市邑ナラサルハナク當時邦國ト
 稱セシ者ハ只市邑ノ聯合シタルモノニシテ羅
 國イトトリリアン國サムニテトス國等モ皆
 市邑ノ聯合シタルモノナリキ
 當時此國ノ形状方今ト異ニシテ嘗テ村落ナル
 モノナク田野ハ耕耘シタレ人民ノ之ニ住スル

モノナク地主地頭ハ盡ク市城ノ中ニ住シ時々
其所有地ヲ巡見シ其所有地ハ只奴僕ヲ留メテ
之ヲ守ラシメ之ヲ耕サシムルノミニシテ目今
吾人ノ稱スル村落ノ如ク沃土瘠地ヲ論セス高
樓矮屋全國ニ撒布シ雞犬相聞ヘテ四境ニ達ス
ルカ如キモノハ當時伊太利ノ人民ニハ夢ニモ
觀サリシ形状ナリ

羅馬史ニ因テ其攻畧ノ状ヲ見ルニ其共ニ戰爭
スル者モ市邑ナリ其之ヲ治ムルモノモ市邑ニ
シテ又其殖民ヲ送リタル處モ亦市邑ナリ故ニ

羅馬ノ全洲混一史ハ万千ノ市邑ヲ攻畧シ無數
ノ市邑ヲ創立シタルノ事蹟ヲ載セタル書ナリ
羅馬東洲亞細亞領地ハ西洲歐羅巴領地ノ如ク
ナラス同族政体ヲ用ヒタル國々タルヲ以テ只
市邑ニノミ聚合スルノ風ナカリシ然レモ今亦
ス所ハ專ハラ西洲領ノ形状ナルヲ以テ東洲領
ノ形状如何ニ関セス説クモノナリ

今西洲領ノミヲ以テ之ヲ見レハ正ニ吾カ説キ
シ如クゴール佛蘭西國スベ西班牙兩國ノ如キモ亦
只市邑アルノミニシテ餘ノ地方ハ編子ク沮澤

林藪ノミニシテ人烟ヲ絶テリ又古時ノ羅馬ノ
記識トスヘキ羅馬道ヲ覽ヨ此道只市邑ノ間ニ
相通スルノミニシテ今時ノ如ク側路ヲ以テ之
ヲ横截セス又夕寺院城砦別墅村落等ノ如キ野
間ニ散見スヘキ者ヲ羅馬ニ見ルナク只其遺
跡ノ觀ルヘキハ數十百万ノ人民ヲ聚メテ之ヲ
叢爾タル一小市邑ニ置キタル者ノ故ニ羅馬
ノ歴史ヲ通覽スルニ專ハラ市邑ノ事ヲ載セテ
村民野落ノ事ヲ載セス此ノ如ク只單純ニ市邑
ノ政ヲ以テ一概ニ之ヲ廣大ナル管轄ノ州郡ニ

施シタルハ羅馬ノ国ヲ建ル堅固ナラス忽チニ
覆亡シタリシ所以シナリ
羅馬ノ如ク市邑合併ヲ以テ結構シタル政法ハ
能ク攻畧シテ全世界ヲ混一スヘキモ其畧取ノ
地方ヲ統括シテ一塊トナシ一定ノ規則ノ下ニ
置キ之ヲ治ムル一決シテ能ハサルナリ故ニ西
洲ヲ混一シ又々東洲大半ヲ幕下ニ致スノ目ニ
於テ既ニ自立シテ其命令ヲ奉セサル市邑數百
ヲ其中ニ生セリ是ニ於テカ市邑ノ政法ハ斯ク
廣大ナル地方ニ施コスヘカラサルヲ悟リ政令

ノ出ル所ヲ一ニシ衆庶ノ耳目ヲ一ニ歸セシム
ヘキカ爲メニ市邑ノ政ヲ變シテ帝國ノ政トナ
シ以テ廣大ニシテ歸着スル所ナキ人民ヲ聚メ
テ之ヲ治メントセリ是ヲ以テ「ローマ」ガスタス「ダ」
イヲクレシアンニ朝ノ間ニ於テ有名ナル羅馬
法律ヲ製シ威權ヲ以テ制伏スルノ政令ヲ定メ
諸司百官ヲ置キ之ヲ各地各方ニ派出シ其政法
ヲ布キテ上意ヲ下ニ通シ貢稅ヲ徵シ反亂ヲ防
キ順從ヲ來スヘキノ具トナシ政府人民ノ間ヲ
連鎖シ以テ稍其希望ノ達ルヲ得タリ

カク兵力ヲ強クシ羅馬政法ノ根本ヲ堅固ナラ
シメタルノ外巧ニニ獨立市邑ノ合併シタル一
大因ノ民心ヲ帝王權政ノ下ニ致シ來シテ能ク
須臾ニ順從ナラシメタリシハ實ニ後人ヲシテ
驚愕セシムルノ偉業ナリ斯ク法制備ハラス個
々自立シテ統御スル者ナキ時ニ當ツテ相連綴
スルハ政府人民共ニ甚々相利スル所ノ者ナリ
然ラサレハ「ローマ」ノ能ク權政ヲ以テ人民ノ「ナ」心
ヲ得ルノ理アラシヤ
羅馬帝國ノ能ク内亂外寇ヲ防禦鎮壓シテ永久

ニ耐ヘシ者ハ全ク政法軍制共ニ立テ且ツ民ノ
心ヲ得タルヲ以テナリ然レバ終ニ權政順民モ
能ク再ヒ其氣運ノ傾クヲ起ス能ハサルノ時来
レリ紀元三百年代ニ至ツテ紀綱大ヒニ紊レ蠻
夷四境ヲ侵シテ止ム所ナク左リ右ヲ顧ミル能
ハス前へ後ヲ救フニ遑アラス各自ノ郡國個
々ニ其禍福ヲ受ケ之ヲ帝國ト共ニスル能ハス
一大帝國殆ト傾覆セントスルノ勢ヲ為セリ
是ニ於テ一二ノ帝後來用ユル所ノ權政ヲ廢シ
他ノ良政ヲ索ノテ將ニ傾キ倒レントスルノ帝

國ヲ維キ留メント欲シ自由政ハ善ナルヘキカ
將令衆政人民ノ代理ヲハ適宜ナランカト心ヲ
悩マシゴルノ南部ニ於テ代理政府ノ一種ニ
属スル政治ヲ建テ將ニ瓦解セントスルノ帝國
ヲ維持セントゴル今ノ佛蘭西ノ知國事ニ送リタ
ル詔書アリ左ニ

紀元四百十八年「ノリアススエラドリ」
二帝ヨリエール在留「ノ知國事」
アリコリニ勅ス
英名赫々タル知國事足下カ忠言及其他國家

ヲ利スヘキノ論策ニ原ツキ今數條ノ新令ヲ
 發シ之ヲ永久依倣ノ法トナシ七部ユールニ
 落億万ノ民ヲシテ之ニ由ラシメント欲ス此
 令タルヤ正ニ萬民ノ希望スル所ヲ斟酌シテ
 製セシ者ナリ制ニ曰ク官私ノ利便ヲ謀ラン
 カ為ノ忠良ノ士ヲ代理トシテ郡國ハ勿論市
 邑ヨリモ其任ニ堪ユヘキ者ヲ撰ンテ貢セシ
 ノ國家出納ノ職ニ任シ又々兼テ地主地頭ニ
 便益ナルヘキ者ハ諱忌ハカルスル所ナク之ヲ商量
 スルヲ得セシメハ國家ノ利益福祥ヲ補ナフ

甚大ナラン其會令ハ直チニ今年ヨリ創メ年
 ヲ月日ヲ期ノ一定ノ地ニ於テスヘク其廳管
 轄ナル七部ノ貢士ハエールニ會スヘシ此令
 果ノ行ハレハ官私兩ツナカラ便ナラン其最
 便益トスル所ハ人民ノ俊秀ナル者ヲ集メテ
 之ヲ英名赫々タル知國事國家ノ大事アリ止
 ノ外知國事此議院ノ前ニ致シ官私ノ事物ヲ
 ニ出ルヲ常トス
 此處ニ決セハ最良ナル意見ヲ得ヘキ一疑ナ
 シ且此會議ニ論決スル所ノ者ハ總テ之ヲ陰
 諱スルヲナク徧子ク億兆ニ明示スヘシ然ラ

ハ自然此會議ニ與カラサル者モ公議ノアル
所ヲ知テ事物都テ公平ノ處置ニ歸スヘキナリ
又官民ノ便宜ヲ謀リ之ニ兼ルニ交際親睦ナ
ラシモンカ為メ別ニコンスタンチーンニ於テ
年々會議ヲ設ケン此府ノ位置ハローン河ト
チュスカン海トヲ合シテ往来ヲ便ニシ迂ヲ愛
シテ直トシ遠離ヲ縮メテ比隣トナシ商賈遠
客諸色ノ人ノ輻輳スル所ニシテ世界萬國ノ
貨物ノ流注スル所ナリ此府ヤ東洲ノ富殷亞
刺非亞ノ香料アッシリアノ甘美亞弗利加ノ

沃饒西班牙ノ艷麗ゴールノ勇猛ノ如キ偏子
ク天下ノ善美ヲ集メテ陸路ヨリ洋海河川ヨ
リ舟筏ニヨリ車轂ニヨリ盡ク之ヲ輦下ニ致
シ恰カモ府下掌大ノ地ニ於テ之ヲ産スルカ
如ク實ニ億兆ノ耳目ヲ一新スルニ足レリ若
シ此集會ノ議能ク一致セハ此府商賈ノ繁榮
生計ノ安樂ヲ得ヘキナリ
高名ノ知因事ナリシペトロニアス既ニ是義
事ニ付キ献言アリ朕其言ヲ嘉納シ速カニ之
ヲ施行セントセシニ不幸ニシテ國家及乱多

端ノ際ニ會シ專ハラ武斷ヲ以テ治圀ノ法ト
為サ、ルヲ得サリシヲ以テ今日ニ至ルマテ
之ヲ實事ニ施サ、リキ然ルニ令卿^レバトロニ
アスノ後トシテ又朕カ從弟ナリ以テ能ク祖
先ノ意ニ從カヒ朕ノ意ニ合シテ是義舉ヲ企
タテ以テ圀家ノ福祚ヲ長セシメ以テ先人ヲ
耀カス^ル之實ニ朕カ卿ニ希望セシ所ニシテ
卿先ツ是ニ着眼シ實ニ朕カ懷ヲ慰ムルヲ
得タリ希クハ卿之ヲ勉メテ終始愛スルヲア
ルナカレ

八月十三日ヨリ九月十三日マテノ中ニ毎年
エールス府ニ會合スヘキヲ諸司百官及各
地ノ令知事ヨリ地主地頭ニ至ルマテ漏ス所
ナク之ヲ布告セヨ而シテ集會ノ長短ハ時宜
ニ依リ預シメ定限ヲ立テス
ハ^レーゲンポ^レプエ^レナ^レ及第ニ^レアキテイ^レンノニ地
道路遠^{ミチ}遠^{ハル}ナルヲ以テ公務繁キキハ代理人ヲ
送ル^{ミチ}ヲ許スヘシ
急ツテ會期ニ後ル、者ハ知事ハ罰金、黄金五
ポント^日量^量ヲ徴シ各地ノ貢士ハ三ポント^日ヲ徴

セン

此法必ラス帝國億兆ノ人民ニ大利アルヘク
且ツ古来屢^{シバ}國家ニ功績アル^{イサカシ}エールス府ノ繁
榮ヲ増サン^ニ必セリ

五月十六日發シ六月十日^ニエールス^ニ達ス
公議ヲ取り國家ノ便利ヲ謀ルハ固ヨリ此國民
俗ノ好ム所ニアラサルヲ以テ斯クロフ極メテ
代理政ノ利益ヲ稱賛シ億兆ノ意志ヲ一ニ歸セ
シメント企テタリシモ邦國市邑一モ之ヲ肯ス
ル者ナク一個ノ人モ^{カシ}エールスノ會議ニ赴クモ

ノナカリキ此時ニ當ツテ羅馬ノ國勢正ニ古ニ
復シ人々志念足跡總テ己カ往スル市邑ノ中ニ
留マリ近傍ノ市邑モ相往來セサルヲ以テ各地
方ヲ同法制ノ下ニ置キ一邦國ト為シ難ク一個
民一尺地モ帝國ニ屬セス各市邑各人民各自私
便ヲ謀リテ政府ノ令ヲ奉セス帝國ノ名アツテ
帝國ノ實ナク羅馬帝國實ニ滅亡セリト云フヘ
シ羅馬滅亡シテ又タ其故形ニ復シ市邑ノ政令
再タヒ興レリ是故ニ羅馬ハ市邑ニ興リ市邑ニ
亡^チト云フ

古時羅馬文明ノ遺業能ク歐洲近古ノ文明ニ補
ヒアルモノハ獨リ是市邑政体ナリ之ヲ其古時
ニ在リシ者ニ比スレハ必ラス弱劣不齊ナルヘ
キモ羅馬滅亡ノ秋^キ政法ノ諸原盡ク帝國ト共ニ
亡フルノ際ニ於テ稍頭足^{モウクモト}ヲ存シ巍然トシテ獨
リ其中ニ生存セシ者ハ唯是市邑政体アルノミ
羅馬ノ遺業獨リ市邑ニ在リト云ハ、未タ盡サ
ルニ似タリ。羅馬ノ遺業猶ホ人心ニ殘リ存ス
ルモノアリ之ヲ帝國ト云ヒ皇帝ト云フ今人皇
帝威儀ト皇帝ノ權勢ハ強大ナルヲ領會スルモ

ノハ全ク羅馬ノ遺業ナリ是ヲ以テ羅馬ノ遺業
歐洲近古ノ文化ニ補アルモノニアリ其一ハ市
邑ノ聯合市邑ノ風俗市邑ノ法制自由ノ政令^{民衆}
皆ナ^ス政法ヲ議^スナリ其二ハ皇帝無限ノ權勢^{人ニ}
等級アルナリ
又爰ニ其元貞前件ト大ヒニ異ニ又其意思モ甚
々殊ナルモノニシテ其歐羅巴文明ノ一元貞タ
ルハ相同シキ人民集會ノ一種ヲ羅馬ニ生セリ
是ヲ聖會^{ヨリヂウ}耶蘇教ヲ奉信ト云フ聖會ヲ以テ聖教^{キリキヨウ}
ト混スルナカルヘシ純元三百年代ノ末ヨリ五

百年代ノ始ノニ至ルマテ聖教ノ形状只信仰ニ
 アラスシテ專ハラ制法ニ属シ人民集會ノ一ト
 ナリ僧徒其政權ヲ秉リ其制令ヲ定メテ貢税及
 聖會ノ事物ヲ断シ自立ノ權ヲ其中ニ蓄ヘ又其
 大小會合ノ時ニ於テ常ニ國家ノ事務ヲ商量シ
 又其可否得失ヲ論議シ以テ之ヲ大邦ニ適用ス
 ヘキノ時ニ備ヘタリ豈ニ當時ノ聖教ハ聖會ニ
 アラスシテ信仰ナリト云フヲ得ヘケニヤ
 若シ之ヲ聖會ニアラス信仰ナリト云ハ、羅馬
 滅亡ノ時共ニ其害ヲ被フルヘキ者ニアラサル

ナリ上帝ノ神力ハ暫ラク之ヲ論外ニ置キ只斯
 世ノ事ニ付キテ其本末ヲ論センニ若シ此時ニ
 於テ聖教ハ聖會ニアラス信仰ナリト云ハ、羅
 馬滅亡、蠻夷侵入ノ難ヲ支ヘシモノ果シメ何者
 ナルヘキヤ之ヲ聖會ト云ハンカ將タ信仰ト云
 ハンカ信仰安ンゾ能ク自カラ大難ヲ維持スル
 ヲ得ンヤ其後亞非利加ノ北部及ヒ亞細亞ニ於
 テ聖教ハ因立ノ教ヘトナリ政体ノ一部トナリ
 シ後回々教徒ノ侵入ノ事恰カモ羅馬ニ起リシ
 者ト一軌同轍ナリ當時民間仁義ノカ今日ノ如

ク大ナラス心思ノカモ亦今日ノ如ク強ナラス
故ニ政令ニ依ラサレハ吾身ノ行作ノ善惡ヲモ
知ラス故ニ道義ノ取捨ニ於テ自己ノ議論ナキ
ナリ是ノ如キ人民猛政ノ下ニ住シ教育ヲ被ム
ルモノニアラサレハ馬ニソ能ク是ノ如キ大難
ノ中ニ保存スルヲ得ヘケンヤ天意天命之ヲ論外
ニ置キ世事ニ於テ論スレハ紀元三四百年間ニ
聖教ノ覆亡ヲ支ヘシ者モ聖會ナリ能ク其政法
首長權勢ヲ備ヘテ帝國ノ瓦解ヲ永ク防キシ者
モ亦聖會ナリ蠻夷ヲ馴服セシモ亦聖會ナリ羅

馬ノ世ト蠻夷ノ代トノ間ニ在ツテ文化ノ本原
ヲ失ナハス能ク保護シテ今日ノ進歩ニ大功ヲ
ナセシ者モ亦聖會ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ是
ヲ信仰ト云フヘカラス蓋シ是ヲ聖會ノ因ト云
フテ可ナラン然ルニ熱心渴仰ノ徒ハ是大功業
ヲ以テ聖經ヲ信仰スルノ感應ナリト信スト雖
モ吾ハ是ヲ聖會ノカト信ス因テ今下ニ紀元四
百年代聖教果メ如何ナル元祖ヲ以テ目今ノ文
化ヲ補助セシヤヲ示サン
今將ニ當時聖會ノ形状如何レヲ尋子ン

今聖教ヲ尋ヌルニ尚ホ只此世ノ事ニ関スル者
ヲ取りテ其初發ノ時ヨリ紀元四百年代ニ至ル
マテ宸改ノ形狀ヲ以テシ又之ヲ檢スルニ尚ホ
教義上ニ於テヒス專ハラ固事ニ関スルモノヲ
以テスルニ聖會ハ二回ノ大宸改ヲ歴テ三期各
色ノ形狀ヲ現ハセリ
其初メニ於テ聖會ナルモノハ只同信同意同感
覺ヲ持ツ人々ノ相聚聚シテ一個ノ會社ヲ成シ
共ニ其情意ヲ談シ其教義ヲ講習シ相親交スル
ノミニシテ未タ教法モ定マラス教律ヲモ設ケ

ス又タ僧官ナル者モナカリシナリ
何會社ヲ論セス其初發ノ時ニ於テハ必ラス其
約束ハ緩ミト雖^レ既ニ會社ヲ成シタル者ハ道義
ノカヲ以テ之ヲ鼓舞シ又道義ノカヲ以テ其
解ヲ防カサレハ終ニ其會社ヲ保ツ能ハサルヘ
シ故ニ聖教ノ會社即チ聖會ノ中常ニ講師宜教
師等アリテ道義ヲ以テ其會社ヲ支配セリ然ル
ニ講師宜教師アリト雖^レ未タ僧官モナク又タ
教律ナルモノモ設ケス只同信同情ノ人ノ相集
マリシノミナル者是レ聖教初發即第一期ノ形

狀ナリ

此會社稍力ヲ得漸ク隆ナラントスルヤイナヤ
教法モ一定シ教律ヲモ設ケ僧官ヲモ置キタル
ハ古書ニ見ルヘキナリ其僧官ハ年長查察執事
ト云フ年長ナルモノハ後ニ僧ト云フモノ是ナ
リ查察ナルモノハ後ニ監洞ト云フモノ是ナリ
執事ハ貧困ノ者ヲ施濟スルヲ司ルノ官ナリ
方今此等ノ僧官ノ主務ヲ精細ニ認ムル能ハス
恐クハ當時規律未タ定マラスシテ其主務モ一
定ナカリシラン第一回變改ノ時聖會ノ權ハ

重ニ歸依者ノ手ニ在リ僧官ノ黜陟法律ノ取捨
等總テ歸依者之ヲ決シ未タ聖教ノ政府聖教ノ
人民ト云フカ如キ區別アラス僧官歸依者相依
賴シテ立チ一ヲ失ヘハ各自獨立スル能ハス然
リ而シテ其重權ハ歸依者ニ歸セシモノ是レ聖教
第一回ノ變改即第二期ノ形狀ナリ
第三期ニ至ツテ其形狀全ク前兩期ト相變セリ
是時ニ至ツテ僧徒歸依者全ク相分離シ僧徒ハ
往昔ヨリ依賴シテ維_レ息シ其教化ヲ布キタル會
社ト相離レ金穀其他諸物ノ儲蓄アリテ外ニ仰

クラ要セス自カラ一會社即一政府ヲ設ケテ獨立シタルモノ是レ第二回變政即第三期ノ形状ニシテ實ニ紀元四百年代ノ初メニ當レリ然ルト雖此政府未タ全ク其人民ト離レス夫レ人民ハ政府ノ因テ生ヲ保ツ所ナリ故ニ人民ト全ク相離レテ獨立スヘキ政府アルヲ見ス況ンヤ教門ノ政府ニ於テオヤ是ヲ以テ此政府全ク人民ト相離ル、能ハス稍相連續セリト雖此其政權ニ至ツテハ全ク僧徒ニ歸シテ抑制サル、所ナカリシナリ

僧徒ノ國家ニ大權ヲ得タル所以ハ當ニ教門ノ上ニ於テスルノミナラス又太々市邑ノ長官トナリタルニ因レリ先ニ示セシ如ク精覈ニ論スレハ能ク羅馬ノ滅亡ノ裡ニ殘リ存セシ者ハ只獨リ市邑政体アルノミナリ然ルニ虐政ニ苦ミ市邑ノ衰微セシカ為メニ市邑ノ官吏大ヒニ其數ヲ減シ僅カニ殘リ存スル者モ不智無學ノ徒ノミナルノ時ニ當ツテ僧徒ハ監司及其他ノ衆僧皆熱心ニシテ勇氣アリ好機會ヲ得ハ直ニ之ニ投シテ其權ヲ恣ニセント只管時ノ來ル

ヲノミ渴望セリ斯ク僧徒ノ俗權ヲ奪フヲ以テ
之ヲ罪スルモノハ固陋ト云フヘシ是時ニ當ツ
テ道義ヲ知り心智ノ活潑ナルモノハ唯獨リ僧
徒アルノミ此ノ如キ時ニ於テ此ノ如キ徒ノ到
處ニ權ヲ秉リ勢ヲ得ヘキハ天下ノ通法ナリ何
リ之ヲ怪ムニ足ンヤ
當時羅馬帝ノ法制律令ニ散見スルモノヲ以テ
同上ノ變改ヲ見ルヘシ因テ試ミニニスエアドシア
シ及「ジュスチニア」ノ法律書ヲ繙ケハ市邑ノ事
務ヲ監司僧徒ニ委任シタルモノ無慮數百千ア

ヲ見ル今爰ニ其一ニヲ掲ケテ之ヲ例セシ
市邑ノ貢稅、圉債ノ事務、建築、倉庫、溝渠ノ事務
官立混湯、市邑ノ門、砦壁ノ建築、道路橋梁ノ修
繕、其他市邑ニ於テ官私ノ便宜トナルヘキ者
等、都テ市邑周年ノ事務左ニ決定候事
道德高キ監司及市邑ヨリ撰舉シタル良士三
人相共ニ毎年歲末ニ調歲ノ建築ヲ查察シ其
官吏ノ賢愚、善惡、勤惰ヲ精察シ官立記功碑、倉
庫、混湯、又道路溝渠、其他各種ノ事物能ク其宜
ニ適フヤ適ハサルヤヲ具シテ之ヲ上申スヘ

シ
幼穉ノ者ノ保守及ヒ法律ニ依テ官ヨリ付置
ク保守ヲ命スルニ其家産五千^ノ「^{今其}」
難^{コト}シ^者ヘ^ハ過キサル者ハ其保守ヲ命スル地方
ノ長官ノ自裁ニ出テサルヲ許ス夫レ保守ノ
任ヲ受ル之ヲ長官ノ自裁ニ決セシムレハ其
費大ナルノ患アリ就中長官必ラス其地方ニ
在ルヲ期スヘカラス若シ長官其地ニ居ラサ
ル^ハ其命ヲ受ケントスレハ猶更ニ其費用多
カラニ依テ道德高キ監司ト官吏トヲ合シニ

人以上其地方ニ在ル^ハ監司官吏ヨリ保守
ヲ命スヘシ

教義ノ深秘ヲ得タル者ヲシテ市邑ノ官吏タ
ラシノント欲ス故ニ官吏タルヘキ者ハ監司
學者高士地主及朝官ノ撰擧ヲ以テ之ヲ擧ケ
又其教ヲ奉セシムヘシ其叙命ノ權ニ至ッテ
ハ其權ヲ地方ノ長官ニ歸シ以テ其威ヲミテ
重カラシメ以テ其位ヲシテ固カラシメ以テ
其委任ノ苟ミセサルヲ顯ハサントス
猶此他數百千ノ法律ヲ覽ルニ盡ク羅馬市邑政

体ト中古ノ世ノ自由市邑トノ間ニ在ツテ聖會
政体重權ヲ握リ之ヲ前者ニ受ケテ再タヒ之ヲ
後者ニ授ケ是時ヨリシテ近古自由會社ノ政体
ノ路ニ磚ヲ敷キ初メタリ

前條ニ因テ觀レハ聖會ノ權帝教門ノ中ニ行ハ
ル、ノミナラス猶ホ其歸依者ヲ支配シ猶ホ餘
力ヲ以テ之ヲ世權ノ上ニ及ホスニ至ル其勢力
ノ洪大ナル實ニ人ヲシテ驚愕ニ堪ヘサラシム
聖會ノ近古文明ノ進歩ニ大功アリ且ツ其權威
洪大無量トナリタルモノ實ニ此時ニ胚胎セリ

依テ左ニ其功業ノ綱領ヲ舉ケン

北夷遂ニ羅馬ヲ滅ホシ兇暴殘虐至ラサル所ナ
キノ時ニ於テ仁義ノ道既ニ地ニ墜テ文化ノ諸
原始ント跡ヲ絶テリ然ルニ能ク今日文化ノ種
子ヲ是無道ノ世ニ失ナハサルノミナラス却ッ
テ此艱難ノ中ニ於テ道義ノ念ヲ鼓舞セシモノ
ハ唯リ幸ヒニ聖會アルニ由ルノミ此時ニ當ツ
テ人ノ倫理ヲ辨スル者獨リ聖會アルノミ天道
天命ノ尊重ナルハ人権ノ比スヘキ者ニ非サル
ノ論ヲ唱ヘ世ニ公敷セシモノモ獨リ聖會ナリ

仁慈ヲ以テスルモノハ大願望ヲ得ヘキヲ説キ
シ者モ聖會ナリ能ク人ノ大道ヲ知ラシメ我狄
ヲ愛シテ華民トナヒシ者ハ只此等數事アルニ
依レリ人法人權ノ外更ニ尊重ナル法權アルヲ
教ユルモノハタトヘ其名ハ神ト云ヒ鬼ト云ヒ
道ト云ヒ理ト云フモ皆其本源相同シフシテ又
其歸スル所モ亦相同シク唯其名目ヲ異ニシタ
ルノミ

聖會最後ノ功トスヘキ者ハ神權ト人權ヲ分離
セント大議論ヲ立テタルニアリ其立論トスル

所ハ人権ハ人ノ身軀ノ上ニ施スヘキモ之ヲ人
ノ心志ノ上ニ施コスヘキノ理ナシ故ニ思想ノ
世界ハ行動ノ世界ト分離シテ立ツヘク之ヲ一
ニ歸スヘカラス是ヲ以テ神權ト人權トハ今立
セサルヲ得ヘカラス之ヲ合併シテ一ニ歸セシ
メントスル者ハ天理ニ背ケリト此論一タヒ起
リテ終ニ能ク思想ノ自由ヲ得ルノ本源トナレ
リ是時ヨリ以降若干ノ争鬭困苦ヲ積ンテ終ニ
近代ニ至リ初メテ二者分離スヘキノ論萬民ノ
領諾スル所トナリ文化國ノ人民其澤ヲ被フル

以カラス其神人ノニ權令離スヘキノ論一タヒ
起リ世人之ヲ肯スルノ後僧徒ノ意ト雖ヒ是ヲ
人心ニ強ユル能ハス故ニ心思上ニ於テ屢僧徒
ノ意ニ反スルモノアリ斯ク聖會能ク其力ヲ用
ヒテ此ニ權ヲ令離セシ所以ノ起原ヲ察スルニ
只蠻夷ノ暴横ヲ避ケ其會社ヲ無道ノ世ニ保存
セシト一時ノ計謀ニ出テタルニ過キサルナリ
道義ヲ人心ニ固定シ神法ヲ保存シ神人ノニ權
ヲ令離セル三事業ハ紀元四百年代ニ聖會ノ全
歐洲ニ與ヘタル功業ノ大ナル者ナリ

當時聖會勢力アリテ善ク前ノ三功業ヲ立タリ
ト雖ヒ其所作盡ク有益ニモアラス其初ヨリ蓄
積シタル惡心ノ種子紀元四百年代ノ末ニ至ッ
テ既ニ其惡實結ヒテ文化ノ進歩ニ害スル小ナ
ラス聖會ノ中ニ初ノヨリ治者ト受治者トヲ區
分セントノ志願專ハラ行ハレタリ是ヲ以テ常
ニ政府ヲシテ其人民ノ肯不肯ニ関セス心思ノ
去就身軀ノ生殺ノ權ヲ恣ニセシムルノ事ニ力
ヲ盡シ是ヲ聖會ノ上ニ移シテ上帝ノ政府ナル
モノヲ設立シ以テ君主ノ權ヲ奪ヒ宇宙ヲ總テ

聖會ノ管轄下ニ置カント企テタリ然ルニ此希望ノ遂ケサルニ及ンテ世推ヲ得ントスルノ慾心正ニ油薪ノ火ノ如ク遽カニ之ヲ撲滅シ難ク乃ハ予其道ヲ全ク變シ盟約ヲ結ヒ其金力ヲ傾竭シテ王侯ノ暴行ヲ助ケ其人民ノ權利ヲ奪ヒ其人民ノ膏血ヲ竭テ之ヲ淫奢ニ供ヒシノ己レモ亦其膏血ヲ分チ取り恣ニ淫奢シテ計ノ得タル者トナセリ

右紀元四百年代歐洲文化ノ資本ヲ聖會ト羅馬帝國トニ取ルモノ、要領ヲ擧ケタル者ニシテ

蠻夷ノ侵掠ニ苦ミタル羅馬ノ形狀ナリ文化ノ初期ニ於テ數種ノ諸元質相混攪配合シテ今チ難キ者ヲ各項ノ下ニ之ヲ分解ヒント欲シ既ニ其大概ヲ盡シ今尚ホ爰ニ殘ル者ハ只北蠻ノミナリ因テ左ニ當時北蠻ノ狀態ヲ説カン
北蠻ノ歴史ハ之ヲ精闡スルモ吾人ニ何ノ益カアラシ故ニ只當時北蠻ト云フモノスラガオニク種ニ住シタル一種ノ外ハ都テ日耳曼種ニ屬シ其開化ノ度モ殆ント相均シク互ヒニ甲乙ナカリシヲ知ルノミニシテ更ラン然リト雖此數

種ノ中羅馬ト往来スルノ多少アルニ随カツ
テ必ラス其開化ノ度ニモ深淺ノ差ヒアルヘシ
故ニ「ゴツス」ハ「フランク」スヨリモ其開化必ラス勝
レタルナルヘシ然レモ今吾カ論説スル所ニ於
テハ瑣々タル優劣ハ閑スルニ足ラサルナリ
蠻風ヲ查察スルニ着目スヘキ者ハ專ハラ方今
文化ノ裨益トナリタル者ニ於テスルノミ此事
タルヤ甚タ易キカ如シト雖モ其之ヲ求ムルニ
至ツテハ其タ難シ夫ノ羅馬ノ市邑政体聖會ノ
形状ノ如キハ其餘波尚ホ今ニ存シテ其跡ヲ方

今國家ノ政法ノ上ニ尋ヌルヲ得ヘク其他諸事
ニ於テモ之ヲ認ムルニ由ル所アリ故ニ之ヲ尋
ヌルハ難カラサルモ蠻風夷俗ニ至ツテハ方今
全ク其跡ヲ絶テ之ヲ目今ノ事物ノ上ニ尋ヌル
能ハス必ラス稀ニ殘リ存スル古史ニ因リ若ク
ハ想像ニ因ツテ僅カニ其一今ヲ察スルニ過ギ
サルノミ

北蠻ノ真狀ヲ寫スニ先タツテ先ツ其意志ノ獨
リ異ナル者ヲ示サン北蠻ノ獨リ異ナル意志ハ
身軀ノ自由ヲ慕フノ念甚シク毫モ他人ノ束縛

種ノ中羅馬ト往来スルノ多少アルニ隨カッ
 テ必ラス其開化ノ度ニモ深淺ノ差ヒアルヘシ
 故ニ「ゴツス」ハ「フランクス」ヨリモ其開化必ラス勝
 レタルナルヘシ然レモ今吾カ論説スル所ニ於
 テハ瑣々タル優劣ハ關スルニ足ラサルナリ
 蠻風ヲ查察スルニ着目スヘキ者ハ專ハラ方今
 文化ノ裨益トナリタル者ニ於テスルノミ此事
 タルヤ甚タ易キカ如シト雖モ其之ヲ求ムルニ
 至ツテハ甚タ難シ夫ノ羅馬ノ市邑政体聖會ノ
 形状ノ如キハ其餘波尚ホ今ニ存シテ其跡ヲ方

今國家ノ政法ノ上ニ尋ヌルヲ得ヘク其他諸事
 ニ於テモ之ヲ認ムルニ由ル所アリ故ニ之ヲ尋
 ヌルハ難カラサルモ蠻風夷俗ニ至ツテハ方今
 全ク其跡ヲ絶テ之ヲ目今ノ事物ノ上ニ尋ヌル
 能ハス必ラス稀ニ殘リ存スル古史ニ因リ若ク
 ハ想像ニ因ツテ僅カニ其一今ヲ察スルニ過ギ
 サルノミ
 北蠻ノ真狀ヲ寫スニ先タツテ先ツ其意志ノ獨
 リ異ナル者ヲ示サン北蠻ノ獨リ異ナル意志ハ
 身軀ノ自由ヲ慕フノ念甚シク毫モ他人ノ束縛

ヲ受ルニ堪ヘス。タトヘ其身ハ不幸艱辛ノ下ニ
生ヲ送ルモ決シテ他人ニ属從シテ其命ヲ奉ス
ルヲ悦コハス。必ラス自カラ其力ヲ盡シテ其福
ヲ自カラ享ケン。一ヲ樂ム。一劇シク其心ハ極メ
テ敏捷ニシテ静定スル。一ナキモ敢テ工作ヲ好
マス。只樂ンテ危險ヲ侵シ身ヲ殺シテ悔ヒサル
ハ當時止蠻ノ情態ニシテ内ニ仁義ノ念ヲ存セ
サルニ因テ起ル所ナリ。目今ノ如キ法制整フタ
ル世ニ生レテ當時ノ蠻情蠻態ヲ精察セン。一ハ
大難事タリス。一先生ノ「ハルマル」英國征討

軍記ニ載スル所ハ蓋シ真ニ猷ク蠻状ヲ盡セル
者ト云フヘキカ。又「クル」君ノ亞米利加野蠻
ノ状ヲ記シタルモノヲ見ルニ頗フル古時日耳
曼ノ蠻状ト相發映スル者アリ。此二書ノ如キモ
定ノテ稍想像ヲ加ヘ頗フル詩歌ニ類セル者ナ
ラン。蠻夷ノ惡態ハ只之ヲ人ノ耳目ニ著明ナル
者ニノミ取ルナク當ニ之ヲ蠻人情意ノ善惡ニ
於テ取ルヘキナリ。蠻状ヲ精察スレハ實ニ「ス」
リ。先生ノ記載ヨリモ甚タ粗野ニシテ兇暴殘忍
ノ事ニ於テ尚ホ先生ノ記載ニ漏ルハ者許多ア

リ當時ノ北蠻是ノ如ク愚蠢ニシテ私慾獨リ熾
ニナリト雖氏若シ晴ヲ定メテ之ヲ熟視スレハ
彼等カク徧ヘニ獨立ヲ欲スル中自然ニ高尚ナ
ル性負ヲ備ヘタルヲ見ルヘシ獨立ヲ欲スルモ
ノハ吾カ身ノ人類タルヲ信シ又既ニ吾身人々
ラハ其心智ノ解發ニ於テ他人ノ制抑ヲ受クヘ
カラサルノ意志ヲ懷クガ為メニ起ス所ノ意志
ニシテ是則ハ予吾人天賦ノ道ノ發露スル者ナ
リ
歐洲文明ノ諸元負中ニ身軀ノ獨立ヲ加ヘ心志

自由ノ愛慕ヲ起サシメタル者ハ便ハチ是此ノ
日耳曼野蠻ノ功業ナリ自由ト云ヒ獨立ト稱ス
ル如キ者ハ羅馬人モ知ラス聖會モ知ラス古來
諸國化ノ中ニ未タ顯ハレサリシ名稱ナリ古時
自由ナルモノ、嘗テ一見セシハ政治ノ自由ノ
ミナリキ此政治ノ自由ナルモノハ市邑ノ民々
ルヘキノ自由ヲ云ヒ其盡カシテ得ント苦辛セ
シ自由モ只市民タルヘキノ自由ノ為メニ盡カ
セシノミニシテ未タ自身ノ自由ヲ得ント苦辛
盡カセシ者ハアラサルナリ是ヲ以テ政治ノ自

由ヲ得ントセシ者ハ皆必ラス相會合連結セリ
聖會ノ如キ者是ナリ聖會ノ人皆各其同社ト附
和シ其法制ヲ信奉シ其社ヲシテ廣大ナラシメ
ントカラ盡セリ故ニ聖會ノ氣ハ恰カモ獨立ノ
氣ト相友シタル道ヲ以テ人心ヲ導キ以テ人々
ノ自由ヲ消滅シ善惡万事唯其教條ノ命スル所
ニ默從シ決シテ已カ意ヲ以テ其可否ヲ思索ス
ルヲナキナリ故ニ獨立ノ氣盛ニニ自己情意ノ
欲スル所ニ任セテ行ナヒ後日ノ利害ニ関セス
單絶不錯ノ自由ヲ戀フ如キノ感覺ハ羅馬人聖

會ノ夢ニタモ見サル所ノ者ナリ初癸ヨリシテ
其勢廣大ニシテ且ツ永久ニ持續スヘキ洪益ヲ
ヲ生シタル身ノ獨立心ノ自由ナル文化ノ元質
中最モ尊崇スヘキ者ヲ歐洲文化ノ中ニ導キ來
リテ吾人ニ幸スル者ハ全ク之ヲ蠻人ノ惠贈ニ
歸ス是ヲ以テ今之ヲ旁ヘニ捨テ、徒過スルヲ
ヲ得サルナリ

北蠻ノ遺ス所ニシテ吾人ノ好家産トナリタル
文化ノ元質タム帝ニ獨立自由ニ止マラス尚ホ武保
ナルモノアリ武保トハカラ以テ相助クルノ義

ニシテ武夫武夫ノ間ニ行ハル、一個ノ道ナリ
武夫武夫相交結保護シテ互ヒニ其自由ヲ侵ス
ナク又其起初ニハ上下ノ別モ判然タラス全
同位同力ノ者ノ相交結シタル如クナリシガ時
ヲ歴ルニ随フテ次第ニ上下尊卑ノ別ヲ生シ將
卒ノ區別初ノテ立ち随ツテ諸侯ナルモノ起リ
封建政世間ニ起リシ者ハ全ク其源ヲ茲ニ歸セ
リ此交結ノ生スルヤ其初ノハ人々彼此ノ親愛
ニ起リ親愛自然ニ忠義ヲ生シ人民避クヘカラ
サルノ義務タラスト雖尺此忠義ノ二字ヲ以

テ人々相結ンテ一体ノ如クナリ離ツヘカラサ
ルノ思ヲ懷カシムルナリ試ミニ古時ヲ歴覽セ
ハ々相交結シテ人ヲ以テ人ニ忠義ヲ盡シタ
ルモノアリヤ古人ハ忠義ヲ市邑ニ盡シ北蠻ハ
忠義ヲ人ニ竭ス其忠義ノ起リハ歐洲南部即羅馬
ヲ侵掠スルハ其首長ト軍士トノ間ニ創マリ
後世之ヲ君臣ノ間ニ見タリ此忠義ナルモノ實
ニ歐洲近古ノ文化ノ進歩ニカアル大ナリ其
源之ヲ吾人ノ祖先タル日耳曼人ヨリ生シ其形
体ヲ備ヘタル後流レテ吾人ノ政体中ニ入リ以

テ文化ノ進歩ヲ助ケタルナリ
 以上數件ヲ以テ吾カ先ニ告ケシ如ク歐洲近古
 ノ開化ハ其初發即チ羅馬滅亡ノ時ニ於テ既ニ
 方今文化ノ諸元貞ヲ備ヘテ殆ント殘ス所ナク
 又常ニ各元貞時機ニ投シテ他元貞ヲ^{アツ}露シテ獨
 リ世權ヲ握ラント欲シ動亂維擾ニシテ齊一ナ
 ラサルヲ見ルヘキナリ依テ審カニ之ヲ檢スル
 ニ三個異類ノ政体アルヲ見タリ第一ニ羅馬帝
 國ノ餘氣ノ尚ホ存スル者タル市邑政体第二ニ
 聖會政体第三ニ北蠻政体ナリ此三個ノ政体ハ

其根源各異ニ其結構モ全ク異ニシテ此政体ノ
 下ニ在ル民ハ彼政体ノ下ニ在ル人ト其心志ノ
 赴^{ツキ}ク所全ク相反セリ故ニ毫末ノ束縛モ受ケス
 單純ナル獨立ヲ希望スル者ト並ンテ一心頃從
 スルノ群アルヲ見武保ハ聖教ト並ヒ神權ト人權
 トハ常ニ同地同時ニ顯ハレ教法ト蠻風トハ羅
 馬ノ良法ト相並ンテ立チ各種ノ人民到ル處ニ
 雜居シ言語風俗思想感覺百事異様ナラサル者
 ナキハ實ニ當時歐洲ノ形狀ニシテ其文化ノ諸
 元貞ノ形狀ヲ概言スルモノ是ノ如シ

文化ノ諸原貞亂雜ニシテ相爭鬪セシカ為ノニ
歐洲ノ進歩ヲ遲滯セシノ又屢爭亂ヲ生シテ大
ヒニ國民ヲ苦シノ頗ル艱難辛苦ヲ被フリシヲ
以テ此諸元貞ヲ惡害ノ者トナス者アリト雖
吾ハ之ヲ信セス夫レ心思身軀ノ蓄フル所ヲシ
テ恣マヽニ解癸セシノ以テ天賦ノ德ヲ殘ス所
ナカラシメ且ツ毫末モ他人ニ抑制サル、所ナ
キカ如キ者ハ之ヲ國家ニ取ルモ之ヲ人民ニ取
ルモ其利益タルヤ量ルヘカラス是ノ如キ一時
殞タル勞苦ヲ以テ是ノ如キ万古下場ノ大利

ニ比スレハ實ニ之ヲ九牛ノ一毛ト云フヘキナ
リ夫レ歐洲ノ文化ハ艱難辛苦ニ因テ得タル文
化ナルヲ以テ他洲文化ノ勞苦ナクシテ得タル
文化ニ比スレハ其仁慈ノ進歩甚タ大ナリ

吾レ既ニ羅馬滅亡ノ時全歐洲ノ形狀ヲ示シ又
歐洲近古文化ノ初癸ヨリ其諸元貞ノ混亂騷擾
セルノ大畧ヲ示セリ既ニ各元貞ノ起原ヲ領會
スルノ後ハ將ニコノ諸元貞ノ次第ニ進歩シテ
相共ニ文化ヲ助ケタルノ形情ヲ示サントス因
テ蠻代羅馬帝國滅亡ノ後北蠻侵冠未止サルノ時ヲ云フニ於テ是等諸

230 ~ 1 ~ (1 ~ 2)

元貞事業ノ如何ナル者ヲ為シ遂ケタリシヤ又
其形狀ハ如何ナル者ト變ニタルヤヲ次編ニ分
解セシ

歐羅巴文明史卷之二 終

明治九年二月三日版權免許 明治七年九月十二日出版